



LN 用 Infor Factory Track ユーザーガイド

リリース 6.00.x

重要事項

本書に含まれる資料(あらゆる補足情報を含む)は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料(当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む)、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約(この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます)に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的(以下、「目的」という)として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲読に基づく権利、権原及び利益(すべての修正、翻訳または翻案を含む)は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは本書に含まれる資料を正確で完全なものとするべく注意を払っていますが、Inforは本書に含まれる情報が完全で、誤植やその他の誤りがなく、使用者の特定要件に合致するものであることを保証しません。したがって、Inforは、本書(あらゆる補足情報を含む)の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

リリース: Infor Factory Track 6.00.x

発行日: 2018年6月18日

ドキュメントコード: ft_6.00.x_ftlnug__ja-jp

目次

Infor Factory Track について	7
Infor へのお問い合わせ	9
第 1 章：概要	11
Warehouse Mobility トランザクションへのアクセス.....	11
扱い単位.....	11
カンバン概要.....	12
ラベル印刷の概要.....	12
ラベル印刷接続の設定.....	13
ラベル印刷サマリフォームの使用.....	13
印刷したラベルコードの表示.....	13
ラベルの再印刷.....	14
参照ID.....	14
チームの概要.....	15
Factory Track グループ.....	15
ファンクションキーへのアクションの割り当て.....	17
Factory Track ライセンスモジュール.....	17
ラベル印刷トランザクション一覧.....	18
バーコードラベルへのフィールドの追加.....	21
第 2 章：パラメタの概要	23
従業員のキオスクアクセス設定.....	24
バーコードの設定.....	24
バーコード接頭辞の設定.....	25
組み合わせバーコードの設定.....	26
相互参照値の設定.....	27
従業員レコードの設定.....	27
グローバルパラメタの作成と変更.....	31
グローバルパラメタの設定.....	32
扱い単位のリンクトランザクションパラメタの設定.....	32
プリンタの設定.....	33
サイトパラメタの設定.....	33
ユーザパラメタの作成と変更.....	36
ユーザパラメタの設定.....	37
ラベル形式の定義.....	38
データメインの定義.....	39
Factory track ユーザ役割の定義.....	40

代替ラベルの指定.....	40
第 3 章：デバイス追跡の概要.....	43
第 4 章：トランザクション処理.....	45
トランザクションの定義.....	45
バッジの作成.....	47
バッジの変更.....	48
引当発行トランザクションパラメタの設定.....	48
承認トランザクションパラメタの設定.....	50
完成時トランザクションパラメタの設定.....	54
ASN入庫トランザクションパラメタの設定.....	54
扱い単位のクローズトランザクションパラメタの設定.....	58
委託入庫トランザクションパラメタの設定.....	59
扱い単位の作成パラメタの設定.....	61
クロスドッキングトランザクションパラメタの設定.....	62
顧客返品トランザクションパラメタの設定.....	63
循環棚卸トランザクションパラメタの設定.....	66
経過時間トランザクションパラメタの設定.....	67
グローバル移動トランザクションパラメタの設定.....	69
扱い単位照会の設定.....	70
在庫調整トランザクションパラメタの設定.....	70
在庫転送トランザクションパラメタの設定.....	71
在庫償却トランザクションパラメタの設定.....	73
在庫増加トランザクションパラメタの設定.....	74
品目照会トランザクションパラメタの設定.....	75
ジョブ予約トランザクションパラメタの設定.....	76
カンバン取消トランザクションパラメタの設定.....	78
カンバン作成トランザクションパラメタの設定.....	78
カンバン納入トランザクションパラメタの設定.....	79
カンバン復元トランザクションパラメタの設定.....	79
カンバン要求トランザクションパラメタの設定.....	80
カンバンリセットトランザクションパラメタの設定.....	80
カンバン状況トランザクションパラメタの設定.....	81
扱い単位のリンクトランザクションパラメタの設定.....	81
ロードトランザクションパラメタの設定.....	82
場所照会トランザクションパラメタの設定.....	83
チームの管理トランザクションパラメタの設定.....	83
オーダ別梱包トランザクションパラメタの設定.....	84
出荷別梱包トランザクションパラメタの設定.....	85
梱包照会トランザクションパラメタの設定.....	86

実棚卸トランザクションパラメタの設定.....	87
発送確定から返送トランザクションパラメタの設定.....	88
ピットトランザクションパラメタの設定.....	89
格納トランザクションパラメタの設定.....	92
入庫トランザクションパラメタの設定.....	95
出庫発行トランザクションパラメタの設定.....	99
再梱包トランザクションパラメタの設定.....	101
作業報告トランザクションパラメタの設定.....	102
生産報告トランザクションパラメタの設定.....	103
従業員のリセットトランザクションパラメタの設定.....	106
資材返品トランザクションパラメタの設定.....	107
封印トランザクションパラメタの設定.....	109
出荷トランザクションパラメタの設定.....	110
扱い単位の分割トランザクションパラメタの設定.....	112
シフトの開始/中止トランザクションパラメタの設定.....	112
タスクの設定.....	113
TT休憩開始終了トランザクションパラメタの設定.....	114
TT出退社トランザクションパラメタの設定.....	115
TTジョブ予約トランザクションパラメタの設定.....	116
TT昼休開始/終了トランザクションパラメタの設定.....	116
TT出退勤トランザクションパラメタの設定.....	117
扱い単位のリンク解除トランザクションパラメタの設定.....	117
未計画資材出庫パラメタの設定.....	118
特定のオーダ区分に対するトランザクションパラメタの設定.....	119
特定の倉庫に対するトランザクションパラメタの設定.....	119

Infor Factory Track について

Infor Factory Track は製造、労務、出退勤のデータを操作するための総合的なコレクションシステムです。このアプリケーションは、作業現場と最新情報のやり取りを直接行えるように、お使いの ERP システムに直接統合されます。Infor Factory Track は、完全に統合される次の2つのコンポーネントで構成されています。

- Infor Time Track
- Infor Warehouse Mobility

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するご質問は、Infor Xtreme サポートポータル (<http://www.infor.com/inforxtreme>) をご利用ください。

製品リリース後にドキュメントを更新した場合は、Infor Xtreme に新しいバージョンを掲載します。この Web サイトでドキュメントの改訂を定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントについてのご意見は、documentation@infor.com にお寄せください。

このモジュールには、LN 用 Infor Factory Track の各機能とトランザクションおよびフォームの使い方について説明したトピックが含まれています。

Warehouse Mobility トランザクションへのアクセス

Web ブラウザを使用して、Warehouse Mobility トランザクションへアクセスできます。これらの 2 つのモジュールのトランザクションにアクセスするには、以下の URL を使用します。

- [Warehouse Mobility の標準メニュー]: <http://<utility server name>/wswebclient/Mobile.aspx?page=light&form=WMMMenu.mobi>
- [Warehouse Mobility のアイコンベースメニュー]: <http://<utilityservername>/WSWebClient/mobile.aspx?page=light&form=FTICONMenu.mobi>

注: これらの URL パスでは、実際のユーティリティサーバの名前を使用する必要があります。

モバイルスキャナデバイスで Warehouse Mobility を使用する場合は、いずれかの Warehouse Mobility メニューパスを指し示すようにデバイスを設定する必要があります。標準メニューはデバイスの方向キーを使ったナビゲーション用に最適化されており、アイコンベースメニューはタッチ入力でのナビゲーション用に最適化されています。

扱い単位

扱い単位を使用すると、個別の品目ではなく、ボックスやパレットなどのコンテナを追跡することによって在庫管理を簡素化することができます。コンテナに対して扱い単位を指定すると、そのコンテナの内容物が扱い単位に関連付けられます。扱い単位を使用したトランザクションを処理すると、その内容物にも処理が行われます。例えば、シリアル化されたコンピュータの入った箱を 6 台、新しい場所へ転送します。このボックスに扱い単位を指定すると、扱い単位バーコードをスキャンするだけで、6 台のコンピュータの全てが ERP LN 内の新しい場所に転送されます。ボックスを開けてコンピュータをスキャンする必要はありません。

トランザクションを実行するときは、品目番号と別のストックポイント情報をスキャンする代わりに [扱い単位] フィールドで扱い単位をスキャンできます。

扱い単位に他の扱い単位を含めることもでき、複数のコンテナを使用してトランザクションを行うことができます。この扱い単位は親と呼び、親に含まれる扱い単位は子と呼びます。親扱い単位にトランザクションを実行すると、子にも処理が行われます。

カンバン概要

Warehouse Mobile カンバンメニューのトランザクションを使用して、カンバンシステムを管理します。これらのトランザクションで、ERP LN におけるカンバンの作成や追跡、補充、取消を行います。

カンバンは、常に補充サイクルにおける現在の状況を示します。状況は次の順序で変更されます。

- 1 [在庫あり]: 品目は利用できます。
- 2 [要求済] (オプション): 補充が必要です。
- 3 [承認済]: 補充要求が承認されています。
- 4 [オーダー済]: 生産、購買、移動補充オーダーが作成されます。
- 5 [受入]: オーダーは全数済です。

使用されていないカンバンは、[キャンセル] 状況になります。

カンバンが従う補充サイクルは、カンバンループです。カンバンループフォームで ERP LN におけるカンバンループを構成できます。

トランザクションを実行するときは、品目番号と別のストックポイント情報をスキャンする代わりに [カンバン] フィールドでカンバン番号をスキャンできます。

ラベル印刷の概要

Infor Factory Track の多くのトランザクションはバーコードラベル印刷をサポートしています。ラベルは、Factory Track Mongoose の各フォーム、およびモバイルスキャナトランザクションから印刷できます。

ラベル印刷をサポートしているトランザクションの一覧を表示する方法については、18 ページの「ラベル印刷トランザクション一覧」を参照してください。

「ラベル印刷の設定」を参照してください。

Factory Track でラベルを表示したり再印刷したりするには、ラベル印刷サマリフォームを使用します。

13 ページの「ラベル印刷サマリフォームの使用」を参照してください。

ラベル印刷接続の設定

ラベル印刷ソフトウェアとの接続を確立するには、ラベルインタフェースフォームを使用します。このフォームで使用できるレコードは 1 つだけです。このレコードには、Infor Factory Track が BarTender ラベル印刷ソフトウェアと通信するための接続情報が含まれています。

- 1 ラベルインタフェースフォームを開きます。
- 2 以下の情報を指定します：

[インタフェース区分]

Factory Track をクラウドで実行している場合、[データベースのみ] を選択します。Factory Track をローカルで実行している場合、[ファイル] を選択します。

[ファイルパス]

バーコードラベルを生成するために Factory Track が必要とするデータファイルの作成場所を指定します。BarTender ラベル印刷ソフトウェアはこのデータを実際のファイルに変換します。

[フィールド区切り]

データファイルに使用するフィールド区切りを指定します。

[ラベルテンプレートパス]

ラベルテンプレートのファイルパスを指定します。FactoryTrack をクラウドで実行している場合、このパスはクラウド印刷ユーティリティと同じサーバ上にある必要があります。

- 3 [保存] をクリックします。

ラベル印刷サマリフォームの使用

印刷したラベルコードを表示するには、ラベル印刷サマリフォームを使用します。このフォーム内のラベルは再印刷することも可能です。

13 ページの「出力済ラベルコードの表示」を参照してください。

14 ページの「ラベルの再出力」を参照してください。

印刷したラベルコードの表示

- 1 ラベル印刷サマリフォームを開きます。
- 2 ラベル検索条件を定義するには、以下のすべてまたは一部の情報を指定します。

[トランザクション名]

ラベルの最初の印刷対象となったトランザクションを選択します。

[ユーザ ID]

ラベルを最初に印刷した人物のユーザ ID を指定します。

[要求 ID]

ラベルをその要求 ID に基づいて検索するには、要求 ID の開始値と終了値を指定します。要求 ID は印刷される各ラベルに対して記録されます。

[作成日]

ラベルを作成日に基づいて検索するには、開始日と終了日を指定します。

- 3 [検索] ボタンをクリックします。上で指定した検索条件に一致するラベル要求 ID がグリッドに一覧表示されます。
- 4 あるラベル要求 ID に対して出力された各ラベルの詳細を表示するには、その要求 ID を右クリックし、[詳細] を選択します。ラベル印刷詳細フォームが表示されます。
- 5 オプションとして、ラベルに出力された追加フィールド (組織によって追加されたフィールド) を表示するには、[ラベル拡張] タブをクリックします。

ラベルの再印刷

- 1 ラベル印刷サマリフォームを開きます。
- 2 ラベル検索条件を定義するには、以下のすべてまたは一部の情報を指定します。

[トランザクション名]

ラベルの最初の印刷対象となったトランザクションを選択します。

[ユーザ ID]

ラベルを最初に印刷した人物のユーザ ID を指定します。

[要求 ID]

ラベルをその要求 ID に基づいて検索するには、要求 ID の開始値と終了値を指定します。要求 ID は印刷される各ラベルに対して記録されます。

[作成日]

ラベルを作成日に基づいて検索するには、開始日と終了日を指定します。

- 3 [検索] ボタンをクリックします。上で指定した検索条件に一致するラベル要求 ID がグリッドに一覧表示されます。
- 4 オプションとして、特定のラベル要求 ID のラベルを再出力するには、グリッドでその要求 ID を選択し、[再出力] をクリックします。そのラベル要求 ID に関連付けられたすべてのラベルが印刷されます。

参照ID

参照 ID を使用すると、トランザクションをより効率的に実行できます。参照 ID は一意のバーコードラベルであり、特定の品目とストックポイントの組合せを識別します。トランザクションを実行するために、品目番号、場所、ロット番号といった各ストックポイントの特徴をスキャンするのではなく、参照 ID をスキャンできます。参照 ID はストックポイントの特徴を自動的に指定します。参照 ID は通常、トランザクションの開始時点でスキャンされます。

参照 ID の例:

- シリアル番号と品目番号
- 扱い単位
- ロット番号

参照 ID の構成は、会社組織で在庫をどのように追跡して整理するかにより決定します。

注: ロット番号を参照 ID として使用できるのは、ロット番号が全品目に渡って一意の番号となっており、分割できない場合のみです。

チームの概要

チームは、従業員による処理を効率化するために使用できます。チームメンバは、1つのトランザクションにおいて、チーム内のすべてのメンバのジョブを開始または停止できます。チーム番号を使用して労務トランザクションが実行されると、そのトランザクションはそのチームのすべてのメンバに対してレプリケートされます。監督も、チームに代わって、そのチームメンバ全員に影響する処理を実行できます。たとえば、監督はチームのジョブを開始できます。すると、そのチームのメンバは全員、開始されたジョブに割り当てられます。チームを使用すると、実行しなければならないトランザクションの数が減るため、ジョブの開始を忘れるなど、従業員による誤りの発生確率を抑えることができます。

注: チームに対して出退勤トランザクションを実行することはできません。従業員は、個々に出社および退社の処理を行う必要があります。

チームは Time Track モジュールを使って作成および管理できます。

チームを使用するには:

- 1 チームフォームでチームを作成します。
- 2 チームフォームで従業員をチームに割り当てます。
- 3 ジョブの開始や停止など、労務トランザクションを実行する際には、従業員番号ではなくチーム番号を使用します。

Factory Track グループ

Factory Track では、以下の権限グループがデフォルトで定義されています:

- [FT - 管理者]: Infor FactoryTrack 管理者グループ。管理者は他のユーザプロファイルを設定し、その権限レベルを定義します。管理者には最高レベルのアクセス権があります。管理者にはすべてのフォームへのフルアクセスがあります。通常、管理者は組織、コンフィギュレーション、セキュリティのパラメータを管理および保守します。管理者は、管理者ホームページフォームを使用して管理者の役割に関連するフォームにアクセスできます。
- [FT - 監督者]: Infor FactoryTrack 監督者グループ。監督者は従業員の労務や出退勤のデータを管理します。ライン監督者は例外の許可、時間シートの承認、欠勤の予定、およびシフトの調整を行います。給与監督者は給与データを処理します。監督者は、監督者ホームページフォームを使用して監

督者の役割に関連するフォームにアクセスできます。監督者は、時間サマリフォームを使用して従業員の労務データや出退勤データの概要を確認できます。通常、監督者は組織やコンフィギュレーションのフォームを表示できますが、それらのフォームを編集することはできません。

- [FT - ユーザ]:Infor FactoryTrack ユーザグループ。ユーザは各自の労務や出退勤のデータを報告します。たとえば、取り掛かろうとしている仕事の開始や退社時刻などです。ユーザは、これらの処理に直接関連する、限られた数のフォームにアクセスできます。通常、時間サマリフォームや時間詳細フォームで自身のレコードを表示することは可能ですが、編集することはできません。ユーザはダッシュボードトランザクションフォームやワークセンタナビゲーションホームフォームを使用して、出退勤や労務のトランザクションを入力できます。これらのユーザ権限は従業員レコードのパラメタ設定により管理されます。
- [FT - チームリーダー]:Infor FactoryTrack チームリーダーグループ。チームリーダーはShop Floorモジュールを使用してチームを管理します。チームリーダーはチームを作成することや、チームメンバを追加・削除することが許可されています。また、チームの代表としてトランザクションを実行できます。
- [FT - TT ホームページ]:Time Track の Infor FactoryTrack ホームページグループTTHomePageグループはユーザプロファイルを使用してTime Track の従業員ホームページやそのサブフォームにアクセスします。TTHomePageグループに添付されているユーザプロファイルは従業員レコードに割り当てないでください。このプロファイルは、工程の汎用コンピュータでFactory Track を起動して開いたままの状態にするのに使用します。そうすれば、複数のユーザがFactory Track にログインまたはログアウトすることなく、労務や出退勤のトランザクションを実行できます。
- [FT - WMBase]:デバイスインタフェース用 Infor FactoryTrack WM ベースグループ - 全ての ERP。WMBaseグループは、デフォルトのプリンタを変更するなど、基本的なモバイルスキャナトランザクションを使用したり、Warehouse Mobilityモジュールでポップアップウィンドウを実行したりできます。Warehouse Mobilityのモバイルスキャナユーザは全員、このグループに割り当てられます。
- [FT-LNWMInv]:WMLNInv グループは、在庫に関連するモバイルスキャナトランザクションの使用を認可されています。
- [FT-LNWMProd]:WMLNProdグループは、生産に関連するモバイルスキャナトランザクションの使用を認可されています。
- [FT - TTWMTrans]:TTWMTrans グループは、Time Track に関連するモバイルスキャナトランザクションの使用を認可されています。
- [FT-LNWMNonTT]:LNWMNonTTグループは、Warehouse Mobility 専用のモバイルスキャナトランザクションの使用を認可されています。
- [FT-LNWMInventory]:LN 用 Infor FactoryTrack 在庫。このグループは LN 実装の WM (スキャナ)トランザクションに使用されます。これによりスキャナの在庫トランザクションへのアクセスが許可されます。
- [FT-LNWMNonTT]:LN 用 Infor FactoryTrack NonTime Track 作業トランザクション。このグループは LN 実装の WM (スキャナ)トランザクションに使用されます。これにより、LN ベースの時間モジュールを使用して作業記録機能にアクセスできます。(Time Track が実装されている場合、これは割り当てられません)。
- [FT-LNWMProduction]:LN 用 Infor FactoryTrack 生産。このグループは LN 実装の WM (スキャナ)トランザクションに使用されます。これにより、スキャナの生産サポートトランザクションへのアクセスが許可されます。
- [FT - TTWMTrans]:Infor FactoryTrack Time Track WM トランザクション - SyteLine および LN。このグループは Time Track が実装されている場合 WM (スキャナ)トランザクションに使用されます。
- [Infor - SystemAdministrator]:このグループは Ming.le インタフェースによって Factory Track にユーザを追加するために使用されます。

ファンクションキーへのアクションの割り当て

作業場で使用しているモバイルスキャナデバイスのファンクションキーにアクションを割り当てるには、ファンクションアクションキー値フォームを使用します。

- 1 ファンクションキーアクション値フォームを開きます。デバイス区分が表示されます。
- 2 以下の各アクションについて、スキャナのキー値とキーの説明を指定します。
 - [前のページに移動]
 - [メインメニューに移動]
 - [ヘルプに移動]現在のところ、このアクションは効果がありません。このバージョンの Factory Track では、モバイルスキャナデバイスからヘルプファイルを開くことはできません。
 - [再出力]
 - [ログアウト]
 - [フォーム提出]
 - [一覧を上に移動]
 - [一覧を下に移動]
 - [一覧から現行を選択]
 - [一覧を更新]
 - [ポップアップフォーム実行]: 現行のフィールドに対して選択できるオプションの一覧が開きます。この処理は特定のフィールドでのみサポートされています。
 - [特別値 1]: サイトのカスタマイズに関連する処理を実行します (該当する場合)。
 - [特別値 2]: サイトのカスタマイズに関連する処理を実行します (該当する場合)。
 - [特別値 3]: サイトのカスタマイズに関連する処理を実行します (該当する場合)。
- 3 処理を指定したキー値に割り当てるには [セット] をクリックします。

Factory Track ライセンスモジュール

使用可能な Factory Track ライセンスモジュールとそのアクセス範囲は以下のとおりです。

- [FactoryTrackAuto]: IDO のアクセスに使用されます。
- [FactoryTrackBase]: 標準の Mongoose フォームも含む、Factory Track 管理フォームにアクセスできます。
- [FactoryTrackCloud]: 開発フォームでない全てのフォームにアクセスするための Cloud ライセンス。
- [FactoryTrackDev]: IDO 編集フォームや SQL テーブル/カラム編集フォーム、Factory Track 開発フォームにアクセスできます。
- [FactoryTrackMetrics]: トランザクションメトリックフォームにアクセスできます。
- [FactoryTrackTimeEntry]: Time Track タイムシートフォームにアクセスできます。
- [FactoryTrackTTTrans]: Time Track 専用のフォームにアクセスできます。
- [FactoryTrackWMTrans]: Warehouse Mobility 専用のフォームにアクセスできます。

- [FactoryTrackWMLNInv]:在庫トランザクションへのサイトアクセスを許可します。
- [FactoryTrackWMLNProd]:生産トランザクションへのサイトアクセスを許可します。
- [FactoryTrackWMTTTrans]:Time Track で使用される全ての Warehouse Mobility フォームにアクセスできます。

ラベル印刷トランザクション一覧

バーコードラベル印刷をサポートしているトランザクションが一覧されています。トランザクションをクリックすると、そのトランザクションに対して印刷される情報が表示されます。

- 18 ページの引当発行
- 18 ページの承認
- 19 ページの委託入庫
- 19 ページの扱い単位の作成
- 19 ページのクロスドッキング
- 19 ページの顧客返品
- 19 ページのカンバン作成
- 19 ページのカンバン復元
- 19 ページのカンバンリセット
- 19 ページの扱い単位にリンク
- 19 ページのオーダ別梱包
- 20 ページの出荷別梱包
- 20 ページのピック
- 20 ページの格納
- 20 ページの受入
- 20 ページの再梱包
- 20 ページの作業報告
- 20 ページの生産報告
- 21 ページの扱い単位の分割
- 21 ページの移動
- 21 ページの未計画資材出庫

引当発行

- 出庫:このトランザクション名は出庫トランザクションの一部として扱われます。引当発行はラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

承認

- 扱い単位:品目が処理されると、トランザクションはラベル印刷処理で対応する名前をデフォルトにします。

-
- 入庫:このトランザクション名は入庫トランザクションの一部として扱われます。承認はラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

委託入庫

- 入庫:このトランザクション名は入庫トランザクションの一部として扱われます。委託入庫はラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

扱い単位の作成

- 扱い単位:このトランザクション名は扱い単位トランザクションの一部として扱われます。品目の処理方法に応じて、扱い単位の作成はラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

クロスドッキング

- 出庫:このトランザクション名は出庫トランザクションの一部として扱われます。クロスドッキングはラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

顧客返品

- 扱い単位:品目が処理されると、トランザクションはラベル印刷処理で対応する名前をデフォルトにします。
- 入庫:このトランザクション名は入庫トランザクションの一部として扱われます。顧客返品はラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

カンバン作成

- カンバン:このトランザクション名はカンバントランザクションの一部として扱われます。カンバン作成はラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

カンバン復元

- カンバン:このトランザクション名はカンバントランザクションの一部として扱われます。カンバン復元はラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

カンバンリセット

- カンバン:このトランザクション名はカンバントランザクションの一部として扱われます。カンバン復元はラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

扱い単位にリンク

- 扱い単位:このトランザクション名は扱い単位トランザクションの一部として扱われます。品目が処理されると、トランザクションはラベル印刷処理で対応する名前をデフォルトにします。

オーダー別梱包

- 扱い単位:このトランザクション名は扱い単位トランザクションの一部として扱われます。品目が処理されると、トランザクションはラベル印刷処理で対応する名前をデフォルトにします。

出荷別梱包

- 扱い単位:このトランザクション名は扱い単位トランザクションの一部として扱われます。品目が処理されると、トランザクションはラベル印刷処理で対応する名前をデフォルトにします。

ピック

- カンバン:品目が処理されると、トランザクションはラベル印刷処理で対応する名前をデフォルトにします。
- 出庫:このトランザクション名は出庫トランザクションの一部として扱われます。ピックはラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

格納

- 扱い単位:品目が処理されると、トランザクションはラベル印刷処理で対応する名前をデフォルトにします。
- 入庫:このトランザクション名は入庫トランザクションの一部として扱われます。格納はラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

受入

- 扱い単位:品目が処理されると、トランザクションはラベル印刷処理で対応する名前をデフォルトにします。
- 入庫:このトランザクション名は入庫トランザクションの一部として扱われます。受入はラベル印刷処理でデフォルト設定されています。
- カンバン:品目が処理されると、トランザクションはラベル印刷処理で対応する名前をデフォルトにします。
- シリアル:品目が処理されると、トランザクションはラベル印刷処理で対応する名前をデフォルトにします。

再梱包

- 扱い単位:品目が処理されると、トランザクションはラベル印刷処理で対応する名前をデフォルトにします。

作業報告

- 扱い単位:品目が処理されると、トランザクションはラベル印刷処理で対応する名前をデフォルトにします。
- 生産:このトランザクション名は生産トランザクションの一部として扱われます。作業報告はラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

生産報告

- 扱い単位
- カンバン
- 生産:このトランザクション名は生産トランザクションの一部として扱われます。生産報告はラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

扱い単位の分割

- 扱い単位:このトランザクション名は扱い単位の一部として扱われます。扱い単位の分割はラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

移動

- 扱い単位
- 入庫:このトランザクション名は入庫トランザクションの一部として扱われます。移動はラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

未計画資材出庫

- 出庫:このトランザクション名は出庫トランザクションの一部として扱われます。未計画資材出庫はラベル印刷処理でデフォルト設定されています。

バーコードラベルへのフィールドの追加

バーコードラベルに情報フィールドを追加するには、ラベル印刷拡張フォームを使用します。

- 1 ラベル印刷拡張を開きます。
- 2 [新規] をクリックするか、グリッドで空白の行を選択します。
- 3 以下の情報を指定します:

[ラベル要求 ID]
追加するフィールドの要求 ID を選択します。

[ラベル要求順序]
オプションとして、このラベルを印刷する際のデフォルトの順序を指定します。

[ラベル要求順序、サブ順序]
オプションとして、このラベルを印刷する際のデフォルトのサブ順序を指定します。

[フィールド名]
フィールドの名前を指定します。

[フィールド値]
任意で、このフィールドのデフォルト値を指定します。ユーザが値を指定しなければならないようにするには、空白のままにします。

- 4 [保存] をクリックします。

Infor Factory Track のパラメタフォームを使用すると、組織固有のニーズに合わせてアプリケーションをカスタマイズできます。パラメタフォームには以下の 2 つの種類があります。

- [パラメタ定義フォーム]:これらのパラメタを使用するのは、アプリケーションのカスタマイズを許可されたプログラマーだけにしてください。これらのパラメタによって、使用可能なトランザクションパラメタ設定を定義できます。
- [パラメタ設定フォーム]:これらのフォームを使用して、アプリケーションやその個々のトランザクションの動作を設定できます。

パラメタ定義フォーム



注意: パラメタ設定フォームを使用するのは、アプリケーションのカスタマイズを許可されたプログラマーだけにしてください。これらのフォームに変更を加えると、アプリケーションが正しく機能しなくなる可能性があります。

パラメタ定義フォームは、管理者がパラメタ設定フォームで使用できるトランザクションやパラメタを定義するのに使用します。グローバルパラメタ設定フォームはグローバルパラメタフォームのパラメタを定義するのに使用され、それらのパラメタは Infor Factory Track のすべてのトランザクションおよびフォームに影響します。

トランザクション設定フォームは、アプリケーションで使用可能なトランザクションを決定し、各トランザクションで使用されるパラメタを設定するのに使用されます。このフォームを使用すれば、パラメタ管理システムにカスタムトランザクションを追加できます。

ユーザパラメタフォームでは、ユーザレベルでパラメタを定義します。ユーザ拡張フォームでこれらのパラメタを表示や設定できます。

パラメタ設定フォーム

パラメタ設定フォームを使用すると、アプリケーションやその個々のトランザクションの動作を設定できます。アプリケーションでは以下のパラメタ設定フォームを使用できます。

- 「グローバルパラメタ」:このフォームは、Infor Factory Track のすべてのトランザクションおよびフォームに適用するパラメタを設定するのに使用できます。
- 「トランセット保守」:このフォームを使用して、各トランザクションに対するパラメタを設定します。トランザクション毎におけるオーダタイプの指定、オーダ特定のパラメタ値の使用も指定することができます。

- 「トランザクション倉庫オーダ区分印刷パラメータ」:このフォームを使用して、トランザクション、オーダ区分または倉庫レベルにおける特定のトランザクションに対するラベル印刷設定を構成します。
- 「ユーザ拡張」:このフォームを使用して、個々のユーザの設定を構成します。
- 「倉庫パラメータ」:このフォームを使用して、倉庫に特定のトランザクションパラメタを設定します。

従業員のキオスクアクセス設定

従業員フォームでは、従業員とユーザ間の相互参照を確立できます。すると、その従業員は Factory Track にログインし、相互参照されたユーザのユーザ区分に基づいてトランザクションを実行できるようになります。ただし、従業員がユーザに関連付けられている場合、相互参照は必須ではありません。

相互参照を確立するには:

- 1 従業員フォームを開きます。
- 2 キオスクへのアクセスを与える従業員を選択します。
- 3 [ユーザ名] フィールドで、選択した従業員の相互参照先となるユーザを選択します。
- 4 以下の情報を指定します:

[労務の編集]

このチェックボックスをオンにすると、労務レコードを編集したりギャップレコードを挿入することができます。ユーザーに従業員フォームに必要な編集権限を割り当てる必要があります。

[欠勤の編集]

このチェックボックスをオンにすると、従業員は欠勤要求の状況を [要求済] から [拒否済] に変更することができます。状況の更新に基づいて要求は取り消されます。

注:

- 状況が [承認済] に設定されている場合、従業員は状況を [拒否済] に変更できません。
- 従業員は出退勤トランザクションを編集または削除することはできません。

- 5 従業員レコードを保存します。
- 6 ユーザ拡張フォームを開きます。
- 7 手順 3 で指定したユーザを選択します。
- 8 [従業員] フィールドに従業員 ID と名前が表示されたことを確認します。

バーコードの設定

既存のバーコード接頭辞、組み合わせバーコード、相互参照値を変更することで、アプリケーションでのバーコードがどのように動作するかを定義できます。

バーコード接頭辞の設定

接頭辞取扱いフォームを使用してバーコード接頭辞を設定できます。バーコード接頭辞はバーコードの初めの部分に埋め込まれ、バーコード区分を示すのに使用されます。スキャンの結果、どのバーコードがどのフィールド区分に割り当てられるかを制御するための必須の接頭辞を設定できます。必須の接頭辞を使用すると、ユーザが間違ったバーコードをスキャンしてフィールドに入力するのを避けることができます。

25 ページの「バーコード接頭辞の設定」を参照してください。

組み合わせバーコードの設定

組み合わせバーコードを使用すると、複数のバーコードを組み合わせることで1つのバーコードストリングにすることができるため、スキャナ操作の効率が向上します。組み合わせバーコードを設定するには、複数バーコード区切りフォームを使用します。組み合わせバーコードを使用するトランザクションを定義したり、これらの組み合わせバーコードのプロパティを定義したりできます。

26 ページの「組み合わせバーコードの設定」を参照してください。

相互参照値の設定

バーコード値間の相互参照を設定するには、相互参照フォームを使用します。これらの相互参照により、最初のバーコード値がスキャンされたとき、その値が別の値に自動的に変換されます。たとえば、購入先から部品を受け取る際、その部品にABCという購入先のバーコード値が付いているが、自社のシステムではそれと同じ部品がXYZとして認識されるとします。この場合、ABCとXYZの値間で相互参照を作成しておけば、ABCがスキャンされた部品がXYZとして読み込まれます。

27 ページの「相互参照値の設定」を参照してください。

バーコード接頭辞の設定

バーコード接頭辞を設定するには、接頭辞取扱いフォームを使用します。バーコード接頭辞はバーコードの初めの部分に埋め込まれ、バーコード区分を示すのに使用されます。スキャンの結果、どのバーコードがどのフィールド区分に割り当てられるかを制御するための必須の接頭辞を設定できます。必須の接頭辞を使用すると、ユーザが間違ったバーコードをスキャンしてフィールドに入力するのを避けることができます。

- 1 接頭辞取扱いフォームを開きます。
- 2 新しいバーコード接頭辞フィールド区分を設定するには、[新規]をクリックするか、左側のグリッドの空白行を選択します。既存のバーコード接頭辞フィールド区分を変更するには、グリッドでそのフィールド区分を選択します。
- 3 以下の情報を指定または確認します：

[接頭辞フィールド区分]

フィールド区分の名前を指定します。既存の接頭辞フィールド区分を変更する場合、このフィールドは読み取り専用です。

[接頭辞は必須]

接頭辞を含まないバーコードがスキャンされてこのフィールド区分に入力されるのを防ぐには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [データ接頭辞詳細] グリッドで、この接頭辞フィールド区分の接頭辞の値を定義します。接頭辞の値を定義するには、グリッドで空白行または既存の行を選択し、以下の情報を指定します。

[接頭辞順序]

この接頭辞を検索する際の順序を指定します。たとえば、このフィールド区分に対してバーコードをスキャンしたとき、この接頭辞を最初に検索する場合は、[1] と指定します。

[接頭辞コード]

接頭辞の文字値を指定します。

- 5 [保存] をクリックします。

組み合わせバーコードの設定

組み合わせバーコードを使用すると、複数のバーコードを組み合わせることで1つのバーコードストリングにすることができ、スキャナ操作の効率が向上します。組み合わせバーコードを設定するには、複数バーコード区切りフォームを使用します。組み合わせバーコードを使用するトランザクションを定義したり、これらの組み合わせバーコードのプロパティを定義したりできます。

- 1 複数バーコード区切りフォームを開きます。
- 2 トランザクションに対して新しい組み合わせバーコードを設定するには、[新規] をクリックするか、左側のグリッドの空白行を選択します。既存の組み合わせバーコードを変更するには、グリッドでその組み合わせバーコードを選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[トランザクション名]

トランザクションの名前を指定します。既存の組み合わせバーコードを変更する場合、このフィールドは読み取り専用です。

[ソースフィールド]

バーコードがスキャンされるフィールドを選択します。

[固定長]

固定の文字長を使用して組み合わせバーコード内に異なる情報区分を定義する場合は、このチェックボックスをオンにします。グループ文字列を使用して組み合わせバーコード内に異なる情報区分を定義する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[マップ区切り]

このフィールドを使用できるのは、[固定長] チェックボックスがオフの場合だけです。区切り文字として使用する文字を指定します。

[フィールド数]

組み合わせバーコードに含めるフィールドの数を指定します。

- 4 [ターゲットフィールド] フィールドで、組み合わせバーコードに含めるフィールドを選択します。
- 5 [保存] をクリックします。

相互参照値の設定

バーコード値間の相互参照を設定するには、相互参照フォームを使用します。これらの相互参照により、最初のバーコード値がスキャンされたとき、その値が別の値に自動的に変換されます。たとえば、購入先から部品を受け取る際、その部品にABCという購入先のバーコード値が付いているが、自社のシステムではそれと同じ部品がXYZとして認識されるとします。この場合、ABCとXYZの値間で相互参照を作成しておけば、ABCがスキャンされた部品がXYZとして読み込まれます。

- 1 相互参照フォームを開きます。
- 2 新しい相互参照コード区分を設定するには、[新規]をクリックするか、左側のグリッドの空白行を選択します。既存の相互参照コード区分を変更するには、グリッドでその相互参照コード区分を選択します。
- 3 以下の情報を指定または確認します：

[相互参照コード区分]

相互参照コード区分の名前を指定します。既存の相互参照コード区分を変更する場合、このフィールドは読み取り専用です。

[記述]

相互参照コード区分の説明を指定します。

[区分優先度]

この相互参照コード区分を検索する際の優先度として[1]～[999]の値を指定します。たとえば、バーコードをスキャンしたとき、このコード区分を最初に検索する場合は、[1]と指定します。

- 4 [相互参照値] グリッドで、この相互参照コード区分の相互参照を定義します。相互参照を定義するには、グリッドで空白行または既存の行を選択し、以下の情報を指定します。

[相互参照フィールド区分]

フィールド区分を指定します。選択肢は [C] (顧客)、[I] (品目)、または [V] (購入先) です。

[相互参照開始フィールド値]

品目番号など、スキャンされる値を指定します。

[相互参照終了フィールド値]

品目番号など、スキャンした値を変換した代替値を指定します。

- 5 [保存] をクリックします。

従業員レコードの設定

従業員レコードを設定するには、従業員フォームを使用します。従業員にキオスクへのアクセスを許可する場合は、ユーザフォームでその従業員の Mongoose セキュリティプロファイルを作成する必要があります。ユーザフォーム。

- 1 従業員フォームを開きます。
- 2 従業員フォームで、空白行を選択するか、左側にあるグリッドから既存の従業員レコードを選択します。

- 3 従業員番号、従業員名、および役職を指定します。
- 4 Time Track モジュールが実装されている場合は、[TT モードで表示] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Time Track が必要とする追加の従業員情報を指定できます。
- 5 [一般] タブで、従業員の姓、名、ミドルネームのイニシャルを指定します。
- 6 次の追加情報を指定します：

[バッジ ID]

バッジ番号を指定します。デフォルト値は従業員番号です。

[給与 ID]

オプションとして、給与 ID の値を指定します。これは、給与アプリケーションで従業員番号以外の固有 ID が要求される場合にのみ必要です。

[有効]

これを選択すると、従業員レコードが有効になります。時間サマリフォームや時間詳細フォームに従業員レコードを表示するには、また、従業員レコードに対してトランザクションを実行するには、その従業員レコードが有効でなければなりません。従業員レコードが表示されないようにしたり、この従業員のトランザクションが実行されないようにしたりするには、[有効] の選択を解除します。たとえば、解雇された従業員を考えてみてください。従業員レコードが有効である限り、解雇日以前のレポート日はすべて表示され、これらの日付に対してトランザクションが実行または編集される可能性があります。このレコードを無効にすれば、この従業員のレコードはいずれも表示されず、今後トランザクションの入力や編集が許可されることもありません。

[ファシリティ]

このフィールドは Time Track モードでのみ表示されます。この従業員が勤務しているファシリティを指定します。

[部門]

このフィールドは Time Track モードでのみ表示されます。部門を指定します。

[ワークグループ]

このフィールドは Time Track モードでのみ表示されます。ワークグループを指定します。従業員のワークグループでは、監督者が定義されます。

[雇用区分]

このフィールドは Time Track モードでのみ表示されます。従業員区分を指定します。

[シフト]

このフィールドは Time Track モードでのみ表示されます。この従業員が通常の勤務時間を指定します。従業員のシフトでは、入社/退社ルールが定義されます。

[シフトパターン]

このフィールドは Time Track モードでのみ表示されます。一覧からシフトパターンを指定します (該当する場合)。

[間接タスク]

このフィールドは Time Track モードでのみ表示されます。オプションとして、一覧から間接タスクを指定します。これは、時間的ギャップを埋めるためのデフォルトのタスクとなります。

[原価基準]

オプションとして、適切な値を指定します。会社で原価構成が定義されている場合は、この値が必要となります。この値は、トランザクションが ERP に転記される際に含められます。

[ワークセットは有効になりました。]

従業員にワークセットで作業する資格があることを確認するには、このチェックボックスをオンにします。

[シフトの残業閾値を使用]

シフトフォームで定義された残業閾値を使用するには、このチェックボックスをオンにします。従業員区分フォームで定義された残業閾値を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

注:

- カリフォルニア OT メソッドを使用するには、このチェックボックスをオフにします。
- 日次 & 週次 OT メソッドを使用するには、チェックボックスをオンにします。
- ただし、週次 & 日次 OT メソッドは (チェックボックスをオンにしても、オフにしても) どちらの方法でも使用できます。
- パラメータは、7 日目を使用するよう選択する^{必要が}あります。

[タイムオフグループ ID]

任意で、タイムオフグループを選択します。従業員のタイムオフグループはタイムオフの数量と区分についてのどの従業員が適格かを指定します。

7 [キオスクアクセス] セクションで、以下の情報を指定します。

[ユーザ名]

この従業員のユーザ名を指定します。キオスクアクセスを確立するためには、この従業員に Mongoose セキュリティプロファイルが必要です。このフィールドに入力する値は、有効な Mongoose プロファイルユーザ名でなければなりません。

[出退勤]

この従業員がキオスクから出社または退社の時刻を記録できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[労務]

この従業員がキオスクからジョブを開始できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[欠勤要求]

この従業員がキオスクから欠勤時間を要求できるようになります。

[デフォルトオーダ区分]

ダッシュボードトランザクションフォームでキオスクユーザに対して表示されるデフォルトのオーダ区分を指定します。

[デフォルト資源グループ]

ダッシュボードトランザクションフォームでキオスクユーザに対して表示されるデフォルト資源グループを指定します。

[労務の編集]

このチェックボックスを選択すると、その従業員が自身の労務記録を編集および削除することができます。または間隔記録を作成できます。

[欠勤の編集]

このチェックボックスを選択すると、その従業員が欠勤要求を取り下げることができます。

8 [担当者情報] タブで、次の情報を指定します。

[入社日]

従業員が入社した日付を指定するか、矢印をクリックしてカレンダーで日付を選択します。アクティブな従業員レコードについては、入社日またはそれ以降のすべてのレポート日が時間サマリフォームおよび時間詳細フォームに表示されます。これらの日付は従業員のトランザクションを受け入れます。入社日より前の日付は表示されないか、またはトランザクションを受け入れません。

[退職日]

該当する場合は、退職日を指定するか、矢印をクリックしてカレンダーで日付を選択します。アクティブな従業員レコードについては、退職日より前のすべてのレポート日が時間サマリフォームや時間詳細フォームに表示され、従業員のトランザクションを受け入れます。退職日またはそれ以降の日付は表示されないか、トランザクションを受け入れません。

[住所]

住所情報を指定します。国、都道府県、市町村、郵便番号、および国の値を指定します。

[電話]

電話番号を指定します。

[E-mail アドレス]

任意で、従業員は欠勤要求への承認または否認を知らせるE-mail通知を指定のアドレスで受け取ります。

[作業国名]

従業員が居住国以外の国で作業する場合は、作業国名の値を指定します。

- 9 [欠勤] タブで、欠勤追跡を使用している場合、タイムオフグループ ID と追跡年を指定します。[欠勤] タブは Time Track モードでのみ表示されます。

[追跡年度]

利用可能な年度の追跡グループを表示します。

新しい追跡年度を作成するための操作は次のとおりです。

- a [新規] をクリックします。次のフィールドの情報を指定します。

- 追跡年度
- タイムオフグループID
- 有効日

- b [保存] をクリックして、新しい追跡年度の残りを表示します。

- 10 [保存] をクリックします。

- 11 オプションとして、[欠勤] タブで[タイムオフ要求]をクリックしてタイムオフ要求を作成して表示するか、[欠勤追跡表示]をクリックして従業員の欠勤の詳細を表示します。[欠勤] タブは Time Track モードでのみ表示されます。

グローバルパラメタの作成と変更

Infor Factory Track のすべてのトランザクションに影響するパラメタオプションを作成および変更するには、グローバルパラメタ設定フォームを使用します。管理者はグローバルパラメタフォームでこれらのパラメタを設定してアプリケーションをカスタマイズできます。



注意: グローバルパラメタフォームを使用するのは、アプリケーションのカスタマイズを許可されたプログラマーだけにしてください。このフォームに変更を加えると、アプリケーションが正しく機能しなくなる可能性があります。

- 1 グローバルパラメタフォームを開きます。
- 2 新しいパラメタを作成する場合は、[新規] をクリックするか、グリッドの空白行を選択します。既存のパラメタを変更する場合は、グリッドでそのパラメタを選択します。
- 3 以下の情報を指定または確認します:
 - [ERP タイプ]
このパラメタを適用する ERP を選択します。既存のパラメタを変更する場合、このフィールドは使用できません。
 - [グローバルパラメタ名]
パラメタの名前を指定します。既存のパラメタを変更する場合、このフィールドは使用できません。
 - [グローバルパラメタ区分]
パラメタ区分を選択します。選択肢は [文字列]、[ブール値]、または [数値] です。
 - [グローバルパラメタ値]
任意で、このフィールドのデフォルト値を指定します。ユーザが値を指定しなければならないようにするには、空白のままにします。
 - [記述]
パラメタの説明を指定します。
 - [エンドユーザ説明]
任意で、エンドユーザの説明を指定します。
 - [親パラメタ]
任意で、親パラメタを指定します。親パラメタが有効化されている場合のみ、このパラメタが表示されます。
 - [パラメタ順序]
任意で、パラメタリストのどの位置にこのパラメタが表示されるかを決定する順序番号を指定します。パラメタの順序番号を指定しない場合は、パラメタはアルファベット順に表示されます。
- 4 [保存] をクリックします。

グローバルパラメタの設定

Infor Factory Track のすべてのトランザクションおよびフォームに適用するパラメタを設定するには、グローバルパラメタフォームを使用します。

- 1 グローバルパラメタフォームを開きます。
- 2 以下の情報を指定します：

[カンバン導入済]

ユーザが品目番号およびストックポイントの特徴をスキャンする代わりにカンバン番号をスキャンできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[カンバンラベル]

カンバンに使用するラベルIDを指定します。このフィールドは、[カンバン導入済] パラメタが選択されている場合にのみ表示されます。

[使用中扱い単位]

扱い単位を使用するには、このチェックボックスをオンにします。

[ERPロットは発注先ロットに等しい]

サプライヤのロット番号を自社のロット番号として自動的に使用するには、このチェックボックスをオンにします。

[使用中EANコード]

ユーザが品目番号の代わりに欧州統一商品番号をスキャンできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。欧州統一商品番号をスキャンすると、該当する品目番号がスキャナに表示されます。

[使用中ICSコード]

ユーザが品目番号の代わりに品目コードシステム番号をスキャンできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。品目コードシステム番号をスキャンすると、該当する品目番号がスキャナに表示されます。

[IT モジュール導入済]

このチェックボックスをオンにすると、ユーザは factory track に関連するトランザクションにアクセスできます。

- 3 [保存] をクリックします。

扱い単位のリンクトランザクションパラメタの設定

扱い単位のリンクトランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[扱い単位のリンク] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[扱い単位マスク]

自動生成される扱い単位番号にマスクコードを指定します。

- 5 任意で、[トランザクションパラメタ] タブで、[ラベル出力パラメタ] を選択してこのトランザクションに対するラベル出力パラメタを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダー区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- 6 [保存] をクリックします。

プリンタの設定

プリンタを設定するには、ラベルプリンタコンフィグレーションフォームを使用します。

- 1 ラベルプリンタコンフィグレーションフォームを開きます。
- 2 新しいプリンタを作成するには [新規] をクリックします。既存のプリンタを設定するには、グリッドでそのプリンタを選択します。
- 3 以下の情報を指定または確認します：

[プリンタ名]

プリンタの名前を指定します。既存のプリンタを設定する場合、このフィールドは読み取り専用になります。

[物理的保管場所]

プリンタの物理的保管場所を指定します。例えば、[受入ドック] と指定します。

[プリンタパス]

プリンタのネットワークパスを指定します。

[モバイルプリンタ]

プリンタがモバイルの場合は、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [保存] をクリックします。

サイトパラメタの設定

サイトパラメタを設定するには：

- 1 サイトパラメタフォームを開きます。

2 以下の情報を指定します:

[サイト]

該当するサイトを指定します。サイト名と説明が表示されます。新しいサイトを作成する必要がある場合は、サイトフォームを開きます。

[ERP タイプ]

該当する ERP タイプを指定します。

[タイムアウトまでの秒数]

アプリケーションクライアントのタイムアウトからの接続リクエストの前に、秒数を指定します。クライアントリクエストがタイムアウトした場合でも、ERPはリクエストの処理を継続し、ERPがリクエストを処理完了する十分な時間を充てることを確実にします。

[エンコーディング]

ERPに接続する際に、XMLファイルのステートメント内にどのエンコーディングタイプが使用されているか指定します。

3 フォームコンポーネント表示を生成するには、[文字列ビュー生成]、[コンポーネントビュー生成]、[メニュービュー生成] をクリックします。

4 [カレンダー設定] タブで、サイトカレンダーの開始日を選択し、追跡年度を指定します。

a 休日を編集するには [サイト休日] をクリックします。

b サイトカレンダーを 12 か月並べて表示するには、[サイトカレンダー] をクリックします。

c 就労週開始日を設定します。以下の情報を指定します:

[就労週 1 日目]

作業週の最初の日とみなされる曜日を設定します。デフォルトでは、この値は月曜日に設定されています。

注: 日次経過従業員と記録済時間従業員の場合、この日は、時間サマリーおよび日次経過サマリーの選択基準の作業週の開始日とみなされます。この日では、週次経過従業員の処理時間も考慮されます。週次経過従業員は、サイトの就労週 1 日目の設定に対応する期間の開始日を持つ給与スケジュールに割り当てる必要があります。

[就労週有効日]

就労週の最初の日の変更が有効になる日付を指定します。この日付以降のレポート日付の週次の選択基準はすべて、対応する就労週 1 日目を使用してレコードを表示します。就労週有効日の前の報告日に関する照会は、有効日に対応する就労週 1 日目を使用してレコードを表示します。就労週有効日の前の報告日に関する照会は、有効日に対応する就労週 1 日目を使用してレコードを表示します。

注: 選択照会での使用に加えて、週次経過従業員の場合、このパラメータは、時間サマリーおよび週次経過サマリーフォームの選択基準の就労週開始日と見なされます。

[就労週の生成]

就労週 1 日目の設定を変更するには、就労週の生成をクリックします。就労週有効日が指定されている場合、有効日より前の報告日は、デフォルトの就労週 1 日目、またはその期間に定義されたこの変更前の 1 日目に対応する 1 日目を使用します。

注:

- 週次経過従業員の場合、有効日は現在のカレンダー日付または将来の日付に設定する必要があります。
- 就労週変更の有効日より前の報告日、または就労週変更前の作成日がある週の従業員の経過詳細レコードについては、作成日をリセットすることはできません。就労週の生成ユーティリティは、将来の日付（計画済欠勤または休日累計レコード）の経過詳細レコードを含む週次経過時間従業員の新しい就労週開始日にレコードをリセットします。
- 担当者 Infor サポートでは、新しい就労週開始日を生成する前に、データ構造を確認します。

5 [LN 通信] タブで、以下の情報を指定します。

[WebサービスURL]

会社のWebサービスURLを指定します。WebサービスページのConnector上でこのURLを確認することができます。Web サービスページの Connector 上で [Web サービス状況] をクリックし最初に利用可能で会社に関連のある WSDL ファイルを開きます。WSDLファイルからWSDL URLをこのフィールドにコピーペーストします。

[Webサービス接尾辞]

会社のものと一致するWebサービス接尾辞を指定します。この接尾辞は、Web サービスコネクタフォーム上で定義された接尾辞がないWebサービスであればどれでも使用できます。

6 ERP サーバとの接続を確認するには、[LN 通信] タブの [テスト接続] をクリックします。

7 [Time Track] タブで、次の情報を指定します。

[給与コード]

任意で、給与コードを指定します。給与コードはサイトによって異なるため、これにより各レコードを識別できます。

[ERP コード]

ERP コードを指定します。一般に、Infor Factory Track のサイトコードは、基盤となっている ERP ソフトウェアで指定されます。サイトパラメタフォームで指定するERPコードは、ERPで指定されている Infor Factory Track のサイトコードに一致しなければなりません。

[ERP シフト]

ERP シフトコードを指定します。このコードにより、作業時間テーブルが指定されます。これは、ERP システムで指定された汎用 24/7 カレンダーです。

[オフセット転記を認める]

差引勘定する負の値を転記することで凍結された転記を自動的にゼロにするには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、4時間の凍結された転記は-4時間の転記により差引勘定されます。凍結された転記に対して ERP エラーを表示する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[再転記を認める]

編集されたトランザクションを ERP システムに転記し直せるようにするには、このチェックボックスをオンにします。再転記されたトランザクションに対して ERP エラーを表示する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[グローバル転記使用]

1つまたは複数のレコードにエラーが含まれているとき、特定の従業員番号とレポート日の組み合わせを共有するレコードの転記を防止する方法を指定するには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、ある従業員が4つのレコードのグループを転記するとき、3つ目のレコードにエラーが含まれていたとします。[グローバル転記使用]を使用すると、4つすべてのレコードの転記がブロックされ

ます。1 つ目、2 つ目、4 つ目のレコードを転記し、3 つ目のレコードだけをブロックする場合は、このチェックボックスをオフにします。

[開始、終了時間を ERP に転記]

シフトの開始時刻と終了時刻を (たとえそれらの時刻が別の日に発生する場合でも) ERP に報告するには、このチェックボックスをオンにします。シフトの設定に従い、シフトの開始時刻と終了時刻を常に同じ日に報告する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[給与処理を元に戻すことを許可]

このチェックボックスをオンにすると、給与を [処理済] から [提出済] に戻すことができます。

注:

- チェックボックスがオンで、ユーザのワークグループ特権 [給与を元に戻す] が [はい] に設定されている場合、ユーザは給与サマリーフォームおよび給与詳細フォームで戻すアイコンを使用して、給与を [処理済] から [提出済] に戻すことができます。ユーザのワークグループ特権 [給与を元に戻す] がいいえに設定されているとき、戻すアイコンは有効ですがユーザが指示した場合は強制停止され、ユーザには給与を元に戻す権限がないと知らせるメッセージが表示されます。
- チェックボックスをオフにすると、給与サマリーフォームと給与明細フォームを元に戻すためのアイコンが無効になります。この機能は、ワークグループの権限設定に関係なく、すべてのユーザに対してオフになっています。

[将来の出退勤トランザクション許可]

このチェックボックスを選択すると、出退勤または作業トランザクションの入力時に将来のトランザクション日時を使用することができます。このチェックボックスをオフにすると、現在または過去のトランザクション日時のみを使用できます。

注: このパラメタによって、計画済欠勤または将来の欠勤要求の入力が制限されることはありません。

- 8 [色] タブで、[色] を選択して休日を示す色形式を選択します。フォアグラウンド (テキスト) 色とバックグラウンド色を指定し、[例] フィールドで結果を確認します。終了したら、[保存して終了] をクリックします。

ユーザパラメタの作成と変更

特定のユーザに対するパラメタオプションを作成および変更するには、ユーザフォームを使用されます。管理者はユーザ拡張フォームでこれらのパラメタを設定してユーザの権限や設定をカスタマイズできます。



注意: ユーザパラメタフォームを使用するのは、Infor Factory Track アプリケーションのカスタマイズを許可されたプログラマーだけにしてください。このフォームに変更を加えると、アプリケーションが正しく機能しなくなる可能性があります。

- 1 ユーザパラメタフォームを開きます。
- 2 新しいパラメタを作成する場合は、[新規] をクリックするか、グリッドの空白行を選択します。既存のパラメタを変更する場合は、グリッドでそのパラメタを選択します。

3 以下の情報を指定または確認します：

[ERP タイプ]

このパラメータを適用する ERP 区分を指定します。既存のパラメータを変更する場合、このフィールドは使用できません。

[パラメタ名]

パラメタの名前を指定します。既存のパラメータを変更する場合、このフィールドは使用できません。

[パラメタ区分]

パラメタ区分を選択します。選択肢は [文字列]、[ブール値]、または [数値] です。

[パラメタ値]

任意で、このフィールドのデフォルト値を指定します。ユーザが値を指定しなければならないようにするには、空白のままにします。

[記述]

パラメタの説明を指定します。

[エンドユーザ説明]

任意で、エンドユーザの説明を指定します。

[親パラメタ]

任意で、親パラメタを指定します。親パラメタが有効化されている場合のみ、このパラメタが表示されます。

[パラメタ順序]

任意で、パラメタリストのどの位置にこのパラメタが表示されるかを決定する順序番号を指定します。パラメタの順序番号を指定しない場合は、パラメタはアルファベット順に表示されます。

4 [保存] をクリックします。

ユーザパラメタの設定

個々のユーザを設定するには、ユーザ拡張フォームを使用します。

- 1 ユーザ拡張フォームを開きます。
- 2 既存のユーザにパラメタ設定をするには、グリッドでユーザIDを選択します。新しいユーザにパラメタ設定をするには、グリッドで空白行を選択し、[ユーザ名] フィールドでユーザ名を指定します。
- 3 以下の情報を指定または確認します：

[ユーザ区分]

ユーザが持つ権限を定義するには、ユーザ区分を選択します。

[従業員]

従業員名とこのユーザに関連付けられた ID が表示されます。従業員 ID は従業員フォームでユーザ ID にリンクできます。

[倉庫]

このユーザのデフォルトの倉庫を指定します。トランザクション設定メンテナンスフォームで [トラン補填倉庫] パラメタが選択されている場合、この倉庫はデフォルトで、トランザクションに対して指定されているデフォルトの倉庫の代わりに使用されます。

[ピック保管場所]

このユーザのデフォルトのピック保管場所を指定します。

[ラベルプリンタ]

このユーザのデフォルトのプリンタを指定します。トランザクション倉庫オーダ区分印刷パラメタフォームで [ユーザプリンタ上書き] パラメタが選択されていない場合は、このプリンタがそのトランザクションに対して指定されているプリンタの代わりに使用されます。

[ERP文書プリンタ]

ERP 文書を印刷するのに使用する必要があるデフォルトプリンタを指定します。たとえば、出荷書類です。

注: ユーザはこのフィールドの内容を確認できないため、ERP で定義されたデータをこのフィールドに正しく入力する必要があります。

[ユーザは時間を変更できます]

ユーザが各自の実行したトランザクションに対して記録されている日時を変更できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。



注意: このパラメタを使用すると、ユーザは時刻、出退勤、ジョブの開始/停止トランザクションを含め、トランザクションに対して記録された時刻を変更できるようになります。このパラメタは、管理者やそれと同等の人員に対してのみ使用するようにしてください。

4 パラメタの設定:

[数量許容値の上書]

ユーザが ERP システムで設定された数量許容を上書きできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[日付許容値の上書]

ユーザが ERP システムで設定された数量許容を上書きできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[倉庫変更の許可]

トランザクションを実行する際にユーザが倉庫を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。ユーザが常にデフォルトの倉庫を使用しなければならないようにするには、このチェックボックスをオフにします。

5 [保存] をクリックします。

ラベル形式の定義

ラベル形式を定義するには、ラベル形式フォームを使用します。

- 1 ラベル形式フォームを開きます。
- 2 新しいラベル形式を定義するには、[新規]をクリックします。既存のラベル形式を変更するには、グリッドでそのラベル形式を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[ラベル名]

ラベルの名前を指定します。この名前は、Bartender アプリケーションで使用されているラベル形式ファイル名と一致しなければなりません。

[記述]

オプションとして、ラベルの説明を指定します。

[ラベルサイズ]

オプションとして、ラベルのサイズを指定します。

- 4 [保存] をクリックします。

データドメインの定義

データドメインを定義するには、データドメインフォームを使用します。



注意: データドメインフォームを使用するのは、アプリケーションのカスタマイズを許可されたプログラマーだけにしてください。このフォームに変更を加えると、アプリケーションが正しく機能しなくなる可能性があります。

- 1 既存のデータドメインを修正するには、グリッドからそのデータドメインを選択します。新しいデータドメインを追加するには、グリッドの空白行を選択します。
- 2 以下の情報を指定します：

[ERP タイプ]

ERP タイプを選択します。

[データドメイン]

適切なドメイン名を指定します。

[データタイプ]

データタイプを選択します。

- [文字列]
- [日付]
- [時間]
- [日付 - 時間]
- [ブール値]
- [整数]
- [10 進数]

[データサイズ]

文字列と整数の数を指定します。

[整数の桁数]

整数の桁数を指定します。

[小数点以下の桁数]

小数点以下の桁数を指定します。

[自動展開]

入力がフィールド定義に対して不十分な場合はこのチェックボックスをオンにします。

[大文字に変換]

文字列を大文字に変換するにはこのチェックボックスをオンにします。

- 3 [保存] をクリックします。

Factory track ユーザ役割の定義

- 1 ユーザ拡張フォームを開きます。
- 2 ユーザレコードを選択します。
- 3 [ユーザ区分] フィールドで、[管理者]、[監督者]、または [ユーザ] を選択します。指定した区分により、選択したユーザが、その区分に適切なフォームへのアクセスを許可するグループ権限に割り当てられます。
 - 管理者はすべてのフォームにアクセスでき、それらのフォームを更新できます。
 - 監督者はほとんどのフォームを表示でき、従業員の時間を入力および編集できますが、コンフィグレーションや組織のテーブルを編集することはできません。
 - ユーザはリアルタイムでトランザクション情報を入力できますが、レコードを編集することや、トランザクションの時刻を変更することはできません。

代替ラベルの指定

特定の品目または顧客に対して印刷する代替ラベルを指定するには、ラベル例外フォームを使用します。

- 1 ラベル例外フォームを開きます。
- 2 新しい代替ラベルを作成するには、[新規] をクリックします。既存の代替ラベルを変更するには、グリッドでその代替ラベルを選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[ラベル名]

代替ラベルに置き換えるラベルの名前を選択します。

[例外区分]

代替ラベルが品目用であるか顧客用であるかを選択します。

[例外キー]

品目または顧客勘定科目を指定します。

[ラベル名後]

印刷する代替ラベルの名前を選択します。

- 4 [保存] をクリックします。

デバイス追跡システムでデバイスの管理を行います。デバイス追跡システムは、デバイスの使用者とデバイスが返却された時刻を追跡するチェックインシステムです。損失や破損といったデバイスの状態の追跡、デバイスの使用、利用履歴などを追跡できます。デバイス追跡システムを設定して使用するには:

- 1 デバイス区分フォームで、デバイス区分を作成します。
「デバイス区分の定義」を参照してください。
- 2 デバイスフォームを開きます。
「デバイスの追加と修正」を参照してください。
- 3 デバイス割当フォームを使用したデバイスの出庫と返却とデバイス割当トランザクション最新デバイス使用フォームで、デバイスの使用と利用状況を表示できます。
「デバイスの出庫と返却」と「デバイスの使用と利用状況の表示」を参照してください。

デバイスフォームを使用して、デバイスの紛失、検出、破損、修理完了の報告を行います。

「デバイスの紛失、検出、破損、修理完了の報告」を参照してください。

この章では、Factory Track LN に関連するトランザクション処理について説明します。

トランザクションの定義

Infor Factory Track アプリケーションのトランザクションを定義するには、トランザクション設定フォームを使用します。たとえば、このフォームを使用してアプリケーションにカスタムトランザクションを追加できます。また、このフォームでトランザクションの設定を構成することも可能です。



注意: トランザクション設定フォームを使用するのは、Infor Factory Track アプリケーションのカスタマイズを許可されたプログラマーだけにしてください。このフォームに変更を加えると、アプリケーションが正しく機能しなくなる可能性があります。

- 1 トランザクション設定フォームを開きます。
- 2 新規のトランザクションを追加するには、[新規オブジェクト作成]をクリックするか、グリッドの空白行を選択します。既存のトランザクションを変更するには、グリッドでそのトランザクションを選択します。
- 3 以下の情報を指定または確認します：
 - [ERP タイプ]
このパラメータを適用する ERP を選択します。既存のパラメータを変更する場合、このフィールドは使用できません。
 - [トランザクション名]
このトランザクションの名前を指定します。アプリケーションにあらかじめインストールされているコアトランザクションを変更する場合、このフィールドは読み取り専用です。
 - [トランザクションフォーム名]
トランザクションに関連するフォーム名を選択します。
 - [トランザクション説明]
このトランザクションの文字列および記述を指定します。この記述はエンドユーザーに対し表示され、他言語に翻訳されることもあります。文字列および記述には個別のフィールドがあります。
- 4 任意で、このトランザクションの設定を構成する際には、以下の情報を指定します。

[トラン補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をデフォルトの倉庫として使用するには、このチェックボックスをオンにします。ユーザはこの値を変更できます。

[正常作動メッセージを表示]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[オーダ区分へ適用]

このトランザクションに適用する指定のオーダ区分がある場合は、このチェックボックスをオンにします。

[ラベル出力のサポート]

トランザクションがラベル印刷をサポートしている場合は、このチェックボックスをオンにします。

[オーダ区分グループ]

このトランザクションに使用されるオーダ区分グループを指定します。[オーダ区分へ適用]を選択した場合のみ、このフィールドを利用できます。

[デフォルトオーダ区分]

任意では、トランザクションのデフォルトオーダ区分を指定します。ユーザはこの値を変更できます。[オーダ区分へ適用]を選択した場合のみ、このフィールドを利用できます。

- 任意で、選択したトランザクションのラベル出力パラメータの設定をするには、[ラベル出力パラメータ]をクリックします。ラベル印刷パラメータの設定に関する詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダ区分に対するラベル印刷設定の構成」を参照してください。
- 新しいパラメータを作成するには、[トランザクションパラメータ]タブで、パラメータを選択するか、グリッドの空白行を選択します。
- 変更または作成しようとしている各パラメータについて、[トランザクションパラメータ]タブで、以下の情報を指定または確認します。

[パラメータ名]

パラメータの名前を指定します。既存のパラメータを変更する場合、このフィールドは使用できません。

[パラメータ区分]

パラメータ区分を選択します。選択肢は [文字列]、[ブール値]、または [数値] です。

[パラメータ値]

任意で、このフィールドのデフォルト値を指定します。ユーザが値を指定しなければならないようにするには、空白のままにします。

[記述]

パラメータの説明を指定します。

[親パラメータ]

任意で、親パラメータを指定します。親パラメータが有効化されている場合のみ、このパラメータが表示されます。

[フォームラベル]

エンドユーザに対して表示するラベルを指定します。

[パラメータ順序]

任意で、パラメタリストのどの位置にこのパラメータが表示されるかを決定する順序番号を指定します。パラメータの順序番号を指定しない場合は、パラメータはアルファベット順に表示されます。

- 8 該当する場合、[オーダー区分パラメータ] タブでパラメータを選択、または新しいパラメータを作成するにはグリッドの空白行を選択します。[オーダー区分パラメータ] タブは、[オーダー区分へ適用] チェックボックスがオンになっている場合のみ有効です。
- 9 [オーダー区分パラメータ] タブで変更または作成中の各パラメータについて、次の情報を指定または確認します。
 - [パラメータ名]
パラメータの名前を指定します。既存のパラメータを変更する場合、このフィールドは使用できません。
 - [パラメータ区分]
パラメータ区分を選択します。選択肢は [文字列]、[ブール値]、または [数値] です。
 - [パラメータ値]
任意で、このフィールドのデフォルト値を指定します。ユーザが値を指定しなければならないようにするには、空白のままにします。
 - [記述]
パラメータの説明を指定します。
 - [親パラメータ]
任意で、親パラメータを指定します。親パラメータが有効化されている場合のみ、このパラメータが表示されます。
 - [フォームラベル]
エンドユーザに対して表示するラベルを指定します。
 - [パラメータ順序]
任意で、パラメタリストのどの位置にこのパラメータが表示されるかを決定する順序番号を指定します。パラメータの順序番号を指定しない場合は、パラメータはアルファベット順に表示されます。
- 10 [オーダー区分] は、取引に関連付けられたオーダー区分グループによって指定されます。[オーダー区分] タブは、[オーダー区分へ適用] のチェックボックスがオンになっている場合のみ有効です。
- 11 作成中の各オーダー区分について、次の情報を指定または確認します：
 - [オーダー区分]
オーダー区分を指定します。
 - [記述]
説明を指定します。
- 12 [保存] をクリックします。

バッジの作成

従業員バッジを作成するには、バッジフォームを使用します。

- 1 バッジフォームを開きます。
- 2 左側のグリッドの最終行を選択します。
- 3 バッジ番号を指定します。
- 4 [有効] を選択します。

- 5 有効な従業員番号を指定します。

バッジの変更

既存のバッジを変更するにはバッジフォームを使用します。

- 1 バッジフォームを開きます。
- 2 左側のグリッドでバッジを選択します。
- 3 従業員をバッジに割り当てるには、有効な従業員番号を指定します。
- 4 バッジを有効にするには [有効] を選択します。バッジを無効にする場合は、このチェックボックスをオフにします。
- 5 [保存] をクリックします。

引当発行トランザクションパラメタの設定

引当発行トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[引当発行] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダ区分]

トランザクションのデフォルトオーダ区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- 4 [オーダ区分パラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで、このオーダ区分に特定のパラメータを設定します。

[カートの場合]

ピック時に品目の転送先となるカートの場所を指定します。

[出庫実行番号]

出庫実行のデフォルト番号を指定します。

[出庫発行]

品目ピック時に出庫引当を発行するには、このチェックボックスをオンにします。

[超過ピック可(販売、移動、生産のみ)]

ユーザが ERP LN の標準許容範囲に準拠する必要数量より多い数量をピックできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[ステージ場所]

ピックされた品目のステージ場所を指定します。

[入力ゾーン]

ユーザがゾーンでピックリストを検索できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[品目番号の表示]

ピック中の品目の番号を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[品目番号のスキャン]

ユーザが品目番号をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンした品目番号が在庫明細の品目番号と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[保管場所の表示]

ピック中の品目の保管場所を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[スキャン保管場所]

ユーザが保管場所をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンした保管場所が在庫明細の保管場所と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[保管場所の変更]

ユーザが在庫明細とは異なった保管場所から品目をピックできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、このパラメータによって [保管場所のスキャン] パラメータが上書きされます。

[ロット番号の表示]

ピック中の品目のロット番号を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[ロット番号のスキャン]

ユーザがロット番号をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンしたロット番号が在庫明細のロット番号と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[ロット番号の変更]

ユーザが在庫明細とは異なったロット番号を持つ品目をピックできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、このパラメータによって [ロット番号のスキャン] パラメータが上書きされます。

[扱い単位の表示]

ピック中の品目に割り当てられている扱い単位を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[扱い単位のスキャン]

ユーザが扱い単位をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンした扱い単位が在庫明細の扱い単位と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[扱い単位の変更]

ユーザが在庫明細とは異なった扱い単位に割り当てられている品目をピックできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、このパラメータによって [扱い単位のスキャン] パラメータが上書きされます。

[日付表示]

ピック中の品目の在庫日付を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[日付のスキャン]

ユーザが棚卸日をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンした在庫日付が在庫明細の在庫日付と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[棚卸日の変更]

ユーザが在庫明細とは異なった在庫日付を持つ品目をピックできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、このパラメータによって [日付のスキャン] パラメータが上書きされます。

[ワークセンタ別リスト(生産のみ)]

指定のワークセンタのオープンラインまたはオーダ番号の範囲を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 任意で、[オーダ区分パラメータ] タブで、[ラベル印刷パラメータ] を選択してこのトランザクションに対するラベル印刷パラメータを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダ区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- [オーダ区分] タブで、オーダ区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]

このチェックボックスを選択すると、このオーダ区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメータ]

このオーダ区分に対してオーダ特定のパラメータ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダ区分に対してデフォルトのパラメータ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- [保存] をクリックします。

承認トランザクションパラメータの設定

承認トランザクションに対するパラメータを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- [トランザクション名] カラムで、[承認] を選択します。
- 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダ区分]

トランザクションのデフォルトオーダ区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

4 [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。**[参照 ID 使用中]**

トランザクション開始時にユーザが参照 ID を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。詳細については、14 ページの「参照 ID」を参照してください。

5 [オーダ区分パラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで、このオーダ区分に特定のパラメータを設定します。**[倉庫別フィルタ]**

ユーザが自分の現倉庫にある品目のみを検査できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[不合格コード]

任意で、不合格のデフォルトの理由コードを指定します。

[破棄数量の入力許可]

ユーザが破棄を行う品目数量を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[破棄コード]

任意で、検査時における品目破棄の理由コードを指定します。

[不良理由コード]

任意で、不良品目の理由コードを指定します。

[格納]

ユーザがこのトランザクション内で格納トランザクションを実行できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

[入庫発行]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。入庫オーダを格納に自動発行するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト実行番号]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。この値は常にトランザクションによって使用されます。

[保管場所ポップアップ]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザがスキャンを行わずにリストから格納場所を選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、次のパラメータの最低 1 つを選択する必要があります。

- [固定保管場所を使用]
- [空の保管場所を使用]

- [在庫連結]

[保管場所数]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ポップアップリストに表示する保管場所の最大数を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザがERPLNで設定されている格納保管場所のみを品目の固定保管場所として使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[空の保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、空の保管場所がポップアップリストに表示されます。

[能力チェック]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、能力が十分にある保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[保管場所の確認]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、品目が利用できる保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[在庫連結]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、同一品目の既存する在庫にのみ在庫を転送できます。このパラメータを選択すると、転送対象の品目の数量が正の値である場所のみがオプションリストに表示されます。ユーザは手動で場所を指定することもできます。

[最大在庫から開始]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオフにします。

[全固定保管場所を含む]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が0である場合でも品目の全ての固定保管場所をリストするには、このチェックボックスをオンにします。

[保管場所の事前設定]

[保管場所] フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。このパラメータをオンにした場合は、次のパラメータの最低1つを選択する必要があります。

- [デフォルト保管場所を使用]
- [固定保管場所を使用]
- [入庫にLN論理を使用]
- [在庫連結]

[デフォルト保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。この場所に対して使用するデフォルトの格納保管場所を指定するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト保管場所]

[デフォルト保管場所を使用] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このトランザクションのデフォルトの格納保管場所を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の最初の固定保管場所をこのトランザクションに対するデフォルト格納保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。品目に固定保管場所が指定されていない場合は、[保管場所] フィールドは空のままになります。

[入庫に LN 論理を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。デフォルトの格納保管場所の指定に ERP LN の入庫勧告を使用するには、このチェックボックスをオンにします。

[在庫連結]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の [最大在庫から開始] パラメータが選択されているかどうかに従って、最大数量か最低数量の保管場所フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。

[最大在庫から開始]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目の保管場所をデフォルト保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である保管場所を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

[クロスドッキング有効]

ユーザがこのトランザクション内でクロスドッキングを実行できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

[クロスドック前に扱い単位ラベルを印刷]

[クロスドッキング有効] が選択されているとこのパラメータが利用できます。クロスドックトランザクションの実行前に、扱い単位バーコードラベルの印刷を選択します。

[クロスドック前にシリアルラベルを印刷]

[クロスドッキング有効] が選択されているとこのパラメータが利用できます。クロスドックトランザクションの実行前に、シリアル番号バーコードラベルの印刷を選択します。

- 6 任意で、[オーダー区分パラメータ] タブで、[ラベル印刷パラメータ] を選択してこのトランザクションに対するラベル印刷パラメータを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダー区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- 7 [オーダー区分] タブで、オーダー区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]

このチェックボックスを選択すると、このオーダー区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメータ]

このオーダー区分に対してオーダー特定のパラメータ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダー区分に対してデフォルトのパラメータ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- 8 [保存] をクリックします。

完成時トランザクションパラメタの設定

完成時トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[完成時保守] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[完成時レコードの作成]

オーダにより必須でない場合も、ユーザが構築済のレコードを作成できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[ロット番号の作成]

ユーザがロット番号を作成できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。ユーザが既存のロット番号を指定しなければならないようにするには、このチェックボックスをオフにします。

[シリアル番号の作成]

ユーザがシリアル番号を作成できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。ユーザが既存のシリアル番号を指定しなければならないようにするには、このチェックボックスをオフにします。

- 5 [保存] をクリックします。

ASN入庫トランザクションパラメタの設定

ASN入庫トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[ASN 入庫] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダ区分]

トランザクションのデフォルトオーダ区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。

[参照 ID 使用中]

トランザクション開始時にユーザが参照 ID を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。詳細については、14 ページの「参照 ID」を参照してください。

- 4 [オーダ区分パラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで、このオーダ区分に特定のパラメータを設定します。

注: ユーザが個別の ASN ラインを入庫するときに、オーダ区分パラメータはこのトランザクションのみに適用されます。

[倉庫別フィルタ]

ユーザが自分の現倉庫にある品目のみを入庫できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[LN 活動の上書]

このトランザクションの障害となる LN 活動を上書きするには、このチェックボックスをオンにします。

[LN 活動の実行]

現行の作業にある後続の自動タスクを全て実行するには、このチェックボックスをオンにします。トランザクション内のタスクが失敗すると、トランザクション全体が失敗して、エラーメッセージが表示されます。現行のトランザクション外にある後続の自動タスクを実行するには、このチェックボックスをオフにします。トランザクション外にあるタスクが失敗しても、エラーメッセージは表示されません。

[梱包伝票数量をオープン数量に設定]

ユーザが入庫処理を行う測定単位を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。例えば、1 箱 は 5 個という変換係数が ERP LN において設定されていると、ユーザは 5 個ではなく 1 箱の品目数量を入庫することができます。

[ユーザの最終入庫入力を認める]

ユーザが入庫品目を検査するかどうかを選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。ERP LN の設定に従って品目を検査するかどうかを決定するには、このチェックボックスをオフにします。

[ロット証明コード入力]

ユーザが証明コードを指定して、ドキュメントをロット番号にリンク付けできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[受入済数を入力]

ユーザが受入数量を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。梱包伝票の数量を自動的に入庫処理するには、このチェックボックスをオフにします。

[受入数量を梱包伝票数量を事前設定]

[受入済数を入力] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。梱包伝票の数量を [受入数量] フィールドのデフォルト値として使用するには、このチェックボックスをオンにします。ユーザはこの値を変更できます。

[検査フラグの入力]

ユーザが受入品目を検査できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[棚卸日の入力]

受入られた日付管理品目に対する棚卸日をユーザが指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。品目の保存期間に現在の日付を追加した日付を棚卸日に常に使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[受入日の入力]

ユーザが受入日を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[カンバン ID の入力]

ユーザがオーダ番号と品目番号の代わりにカンバン ID をスキャンできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[在庫時間]

任意で、日付管理された品目の受入を記録する日時を指定します。

[単位入力]

ユーザが入庫処理を行う測定単位を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。例えば、1 箱 は 5 個という変換係数が ERP LN において設定されていると、ユーザは 5 個ではなく 1 箱の品目数量を入庫することができます。

[格納]

ユーザがこのトランザクション内で格納トランザクションを実行できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

[入庫発行]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。入庫オーダを格納に自動発行するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト実行番号]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。この値は常にトランザクションによって使用されます。

[保管場所ポップアップ]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザがスキャンを行わずにリストから格納場所を選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、次のパラメータの最低 1 つを選択する必要があります。

- [固定保管場所を使用]
- [空の保管場所を使用]
- [在庫連結]

[保管場所数]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ポップアップリストに表示する保管場所の最大数を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザが ERPLN で設定されている格納保管場所のみを品目の固定保管場所として使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[空の保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、空の保管場所がポップアップリストに表示されます。

[能力チェック]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、能力が十分にある保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[保管場所の確認]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、品目が利用できる保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[在庫連結]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、同一品目の既存する在庫にのみ在庫を転送できます。このパラメータを選択すると、転送対象の品目の数量が正の値である場所のみがオプションリストに表示されます。ユーザは手動で場所を指定することもできます。

[最大在庫から開始]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオフにします。

[全固定保管場所を含む]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が 0 である場合でも品目の全ての固定保管場所をリストするには、このチェックボックスをオンにします。

[保管場所の事前設定]

[保管場所] フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。このパラメータをオンにした場合は、次のパラメータの最低 1 つを選択する必要があります。

- [デフォルト保管場所を使用]
- [固定保管場所を使用]
- [入庫に LN 論理を使用]
- [在庫連結]

[デフォルト保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。この場所に対して使用するデフォルトの格納保管場所を指定するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト保管場所]

[デフォルト保管場所を使用] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このトランザクションのデフォルトの格納保管場所を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の最初の固定保管場所をこのトランザクションに対するデフォルト格納保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。品目に固定保管場所が指定されていない場合は、[保管場所] フィールドは空のままになります。

[入庫に LN 論理を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。デフォルトの格納保管場所の指定に ERP LN の入庫勧告を使用するには、このチェックボックスをオンにします。

[在庫連結]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の [最大在庫から開始] パラメータが選択されているかどうかによって、最大数量か最低数量の保管場所フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。

[最大在庫から開始]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目の保管場所をデフォルト保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である保管場所を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

[クロスドッキング有効]

ユーザがこのトランザクション内でクロスドッキングを実行できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

[クロスドック前に扱い単位ラベルを印刷]

[クロスドッキング有効] が選択されているとこのパラメータが利用できます。クロスドックトランザクションの実行前に、扱い単位バーコードラベルの印刷を選択します。

[クロスドック前にシリアルラベルを印刷]

[クロスドッキング有効] が選択されているとこのパラメータが利用できます。クロスドックトランザクションの実行前に、シリアル番号バーコードラベルの印刷を選択します。

- [オーダー区分] タブで、オーダー区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]

このチェックボックスを選択すると、このオーダー区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメタ]

このオーダー区分に対してオーダー特定のパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダー区分に対してデフォルトのパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- 5 [保存] をクリックします。

扱い単位のクローズトランザクションパラメタの設定

扱い単位のクローズトランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[扱い単位のクローズ] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [保存] をクリックします。

委託入庫トランザクションパラメタの設定

委託入庫トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[委託入庫] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[保管場所ポップアップ]

[格納] パラメタを選択している場合のみ、このパラメタが表示されます。ユーザがスキャンを行わずにリストから格納場所を選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、次のパラメタの最低 1 つを選択する必要があります。

- [固定保管場所を使用]
- [空の保管場所を使用]
- [在庫連結]

[保管場所数]

[保管場所ポップアップ] パラメタを選択している場合のみ、このパラメタが表示されます。ポップアップリストに表示する保管場所の最大数を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメタを選択している場合のみ、このパラメタが表示されます。ユーザが ERPLN で設定されている格納保管場所のみを品目の固定保管場所として使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[空の保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、空の保管場所がポップアップリストに表示されます。

[能力チェック]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、能力が十分にある保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[保管場所の確認]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、品目が利用できる保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[在庫連結]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、同一品目の既存する在庫にのみ在庫を転送できます。このパラメータを選択すると、転送対象の品目の数量が正の値である場所のみがオプションリストに表示されます。ユーザは手動で場所を指定することもできます。

[最大在庫から開始]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオフにします。

[全固定保管場所を含む]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が 0 である場合でも品目の全ての固定保管場所をリストするには、このチェックボックスをオンにします。

[保管場所の事前設定]

[保管場所] フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。このパラメータをオンにした場合は、次のパラメータの最低 1 つを選択する必要があります。

- [デフォルト保管場所を使用]
- [固定保管場所を使用]
- [入庫に LN 論理を使用]
- [在庫連結]

[デフォルト保管場所を使用]

[デフォルト保管場所を使用] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このトランザクションのデフォルトの格納保管場所を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の最初の固定保管場所をこのトランザクションに対するデフォルト格納保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。品目に固定保管場所が指定されていない場合は、[保管場所] フィールドは空のままになります。

[入庫に LN 論理を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。デフォルトの格納保管場所の指定に ERP LN の入庫勧告を使用するには、このチェックボックスをオンにします。

[在庫連結]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の**[最大在庫から開始]** パラメータが選択されているかどうかによって、最大数量か最低数量の保管場所フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。

[最大在庫から開始]

数量が最大である品目の保管場所をデフォルト保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である保管場所を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- 4 任意で、**[トランザクションパラメータ]** タブで、**[ラベル出力パラメータ]** を選択してこのトランザクションに対するラベル出力パラメータを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダー区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- 5 **[保存]** をクリックします。

扱い単位の作成パラメタの設定

扱い単位の作成トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は**[倉庫]** フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、**[倉庫]** フィールドは空白となり利用できません。
- 2 **[トランザクション名]** カラムで、**[扱い単位の作成]** を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- **[トランザクションパラメータ]** タブの **[パラメータ]** と **[値]** カラムで次のパラメタを設定します。

[扱い単位マスク]

自動生成される扱い単位番号にマスクコードを指定します。

[親の作成]

このトランザクションで扱い単位が作成されるときに、新しい親扱い単位も作成されるようにするには、このパラメタを選択します。

[梱包定義入力]

梱包定義が新しい扱い単位に指定されるようにするには、このパラメタを選択します。

[梱包品目入力]

梱包品目が新しい扱い単位に指定されるようにするには、このパラメタを選択します。

- 任意で、[トランザクションパラメータ] タブで、[ラベル出力パラメータ] を選択してこのトランザクションに対するラベル出力パラメータを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダ区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- [保存] をクリックします。

クロスドッキングトランザクションパラメータの設定

クロスドッキングトランザクションに対するパラメータを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- [トランザクション名] カラムで、[クロスドッキング] を選択します。
- 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダ区分]

トランザクションのデフォルトオーダ区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。

[シリアル/ロットを毎回スキャン]

ユーザがシリアル番号とロット番号をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。ユーザが品目の全数量をストックポイントからクロスドッキングするとき、シリアル番号とロット番号を自動指定するには、このチェックボックスをオフにします。

- [オーダ区分パラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで、このオーダ区分に特定のパラメータを設定します。

[クロスドック保管場所]

ステージングエリアに移動する前のクロスドック品目の一時的な場所の状況を指定します。

[入庫実行番号]

入庫実行のデフォルト番号を指定します。

[出庫実行番号]

出庫実行のデフォルト番号を指定します。

[出庫発行]

出庫オーダを出荷に自動発行するには、このチェックボックスをオンにします。

- [オーダ区分] タブで、オーダ区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]

このチェックボックスを選択すると、このオーダ区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメタ]

このオーダ区分に対してオーダ特定のパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダ区分に対してデフォルトのパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- 7 任意で、[オーダ区分パラメタ] タブで、[ラベル印刷パラメタ] を選択してこのトランザクションに対するラベル印刷パラメタを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダ区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- 8 [保存] をクリックします。

顧客返品トランザクションパラメタの設定

顧客返品トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[顧客返品] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[販売オーダシリーズ]

返品からの販売オーダの生成に使用するオーダシリーズを指定します。

[顧客返品販売オーダ区分]

返品からの販売オーダの生成に使用するオーダ区分を指定します。

[販売オフィス]

返品からの販売オーダの生成に使用する販売オーダを指定します。

[販売オーダの印刷]

販売オーダの生成時に販売オーダを印刷するには、このチェックボックスをオンにします。

[デバイス]

[販売オーダの印刷] パラメタを選択している場合のみ、このパラメタが表示されます。販売オーダの印刷に使用するデバイスを指定します。

[倉庫管理への発行?]

新しく作成された販売オーダーを倉庫へ発行するには、このチェックボックスをオンにします。

[在庫受入?]

返品時に品目を実際に受入れるには、このチェックボックスをオンにします。品目に対してオーダーラインを作成するだけの場合は、このチェックボックスをオフにします。

[格納]

ユーザがこのトランザクション内で格納トランザクションを実行できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

[在庫発行]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。在庫オーダーを格納に自動発行するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト実行番号]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。この値は常にトランザクションによって使用されます。

[保管場所ポップアップ]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザがスキャンを行わずにリストから格納場所を選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、次のパラメータの最低 1 つを選択する必要があります。

- [固定保管場所を使用]
- [空の保管場所を使用]
- [在庫連結]

[保管場所数]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ポップアップリストに表示する保管場所の最大数を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザがERPLNで設定されている格納保管場所のみを品目の固定保管場所として使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[空の保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、空の保管場所がポップアップリストに表示されます。

[能力チェック]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、能力が十分にある保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[保管場所の確認]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、品目が利用できる保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[在庫連結]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、同一品目の既存する在庫にのみ在庫を転送できます。このパラメータを選択すると、転送対象の品目の数量が正の値である場所のみがオプションリストに表示されます。ユーザは手動で場所を指定することもできます。

[最大在庫から開始]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオフにします。

[全固定保管場所を含む]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が 0 である場合でも品目の全ての固定保管場所をリストするには、このチェックボックスをオンにします。

[保管場所の事前設定]

[保管場所] フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。このパラメータをオンにした場合は、次のパラメータの最低 1 つを選択する必要があります。

- [デフォルト保管場所を使用]
- [固定保管場所を使用]
- [入庫に LN 論理を使用]
- [在庫連結]

[デフォルト保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。この場所に対して使用するデフォルトの格納保管場所を指定するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト保管場所]

[デフォルト保管場所を使用] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このトランザクションのデフォルトの格納保管場所を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の最初の固定保管場所をこのトランザクションに対するデフォルト格納保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。品目に固定保管場所が指定されていない場合は、[保管場所] フィールドは空のままになります。

[入庫に LN 論理を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。デフォルトの格納保管場所の指定に ERP LN の入庫勧告を使用するには、このチェックボックスをオンにします。

[在庫連結]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の [最大在庫から開始] パラメータが選択されているかどうかに従って、最大数量か最低数量の保管場所フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。

[最大在庫から開始]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目の保管場所をデフォルト保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である保管場所を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- 5 任意で、[トランザクションパラメータ] タブで、[ラベル出力パラメータ] を選択してこのトランザクションに対するラベル出力パラメータを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダ区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- 6 [保存] をクリックします。

循環棚卸トランザクションパラメタの設定

循環棚卸トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[循環棚卸] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[品目番号の表示]

棚卸中の品目番号を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[品目番号のスキャン]

ユーザが品目番号をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンした品目が棚卸品目と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[保管場所の表示]

棚卸中の品目の保管場所を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[スキャン保管場所]

ユーザが保管場所をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンした保管場所が棚卸品目の保管場所と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[ロット番号の表示]

棚卸中の品目のロット番号を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[ロット番号のスキャン]

ユーザがロット番号をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンしたロット番号が棚卸品目のロット番号と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[日付表示]

棚卸中の品目の在庫日付を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[日付のスキャン]

ユーザが棚卸日をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンした在庫日付が棚卸品目の在庫日付と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[扱い単位の表示]

棚卸中の品目に割り当てられている扱い単位を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[扱い単位のスキャン]

ユーザが扱い単位をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンした扱い単位が棚卸品目の扱い単位と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[システム数のリセット]

品目が棚卸された際に既存の在庫の数量をリセットするには、このチェックボックスをオンにします。

[シリアル番号の作成]

品目が棚卸された際にシステムにシリアル番号を作成させるには、このチェックボックスをオンにします。

[表示明細数]

循環棚卸における未計数の数量明細を同時に表示するかどうかを指定します。

[デフォルト理由コード]

品目の許容範囲を超える棚卸数量に対するデフォルトの理由コードを指定します。

- 5 [保存] をクリックします。

経過時間トランザクションパラメタの設定

経過時間トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[経過時間] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダ区分]

トランザクションのデフォルトオーダ区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- 4 [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[従業員コードは数値]

従業員バッジが番号のみである場合は、このチェックボックスをオンにします。従業員バッジ番号が英数字である場合は、このチェックボックスをクリアします。

- 5 [オーダ区分パラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで、このオーダ区分に特定のパラメタを設定します。

[時間労務タイプ入力]

ユーザが時間労務タイプを指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。常にデフォルト値を使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[ワークセンタ入力]

ユーザがワークセンタを指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。常にデフォルト値を使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[原価構成要素入力]

ユーザが時間労務タイプを指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。常にデフォルト値を使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[機械入力]

ユーザが機械コードを指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。常にデフォルト値を使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[タスク入力]

ユーザがタスクを指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。常にデフォルト値を使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[最終作業の場合にオーダ報告]

部品が完了したオーダを報告するには、このチェックボックスをオンにします。このパラメータは、ジョブの最終作業の報告のみに適用されます。

[在庫への生産報告]

完了数量を在庫に入れる場合は、このチェックボックスをオンにします。このパラメータは、最終作業の場合にオーダ報告が有効な場合にのみ、ユーザがジョブの最終作業を報告するときに適用されます。

[停止詳細の報告]

ジョブの数量をレポートする場合にユーザが完了数量を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[レポート設定]

段取時間を報告するには、このチェックボックスをオンにします。

[完了レポートフラグ]

ユーザが作業工程の完了時間を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。作業工程の完了時に ERP LN インタフェースを使用する必要がある場合は、このチェックボックスをオフにします。

[超過報告を認める]

オーダに指定された数量を超過する作業工程数量をユーザが完了できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[不良の許可]

ユーザが作業工程数量を拒否できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト理由コード]

不合格のデフォルトの理由を指定します。ユーザはこの値を変更できます。

[バックフラッシュ]

オーダに対して資材を自動出庫するには、このチェックボックスをオンにします。バックフラッシュに指定された部品表の資材が出庫されます。

[作業必要機械数に基づく機械時間の計算]

現行の作業に対して作業必要機械数の設定に基づいて機械時間を計算するには、このチェックボックスをオンにします。

[オーダー状況の確認]

スキャン時にオーダーと作業を検証するには、このチェックボックスをオンにします。スキャン時に作業の検証のみを行うには、このチェックボックスをオフにします。

- 6 [オーダー区分] タブで、オーダー区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]

このチェックボックスを選択すると、このオーダー区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメタ]

このオーダー区分に対してオーダー特定のパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダー区分に対してデフォルトのパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- 7 [保存] をクリックします。

グローバル移動トランザクションパラメタの設定

トランセット保守フォームを使用して、グローバル移動トランザクションのパラメータを設定します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[グローバル移動] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。

[倉庫オーダー区分]

ERP LNで使用するオーダー区分を指定して、移動に使われる倉庫オーダーを作成します。

- 5 [保存] をクリックします。

扱い単位照会の設定

扱い単位照会トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[扱い単位照会] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [保存] をクリックします。

在庫調整トランザクションパラメタの設定

在庫調整トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[在庫調整] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[参照 ID 使用中]

ユーザが参照IDを指定できるようにするには、このパラメタを選択します。詳細については、14 ページの「参照 ID」を参照してください。

[扱い単位の入力を許可]

ユーザが品目番号と各ストックポイントの特徴を指定する代わりに 1 つの扱い単位を指定できるようにするには、このパラメタを選択します。詳細は、11 ページの「扱い単位」を参照してください。

[シリアル番号入力の許可]

ユーザがシリアル/ロット入力画面を使用しなくても単一のシリアル管理品目の償却を実行できるようにするには、このパラメータを選択します。

[デフォルト理由コード]

在庫調整のデフォルトの理由を指定します。ユーザはこの値を変更できます。

[単位入力]

ユーザが償却を行う測定単位を指定できるようにするには、このパラメータを選択します。例えば、1箱は5個という変換係数がERP LNにおいて設定されていると、ユーザは5個ではなく1箱の品目数量を償却することができます。

- 5 [保存] をクリックします。

在庫転送トランザクションパラメータの設定

在庫転送トランザクションに対するパラメータを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[在庫転送] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。

[参照 ID 使用中]

トランザクション開始時にユーザが参照 ID を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。詳細については、14 ページの「参照 ID」を参照してください。

[扱い単位の入力を許可]

ユーザが品目番号と各ストックポイントの特徴を指定する代わりに1つの扱い単位を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[トランザクションのデフォルトオーダー区分]

在庫転送に使用するデフォルトのオーダー区分を指定します。

[前指定ロット]

ユーザがロット番号を一覧から選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。ユーザがロット番号をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオフにします。

[日付の事前設定]

ユーザが在庫の日付を一覧から選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。ユーザが在庫の日付をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオフにします。

[保管場所ポップアップ]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザがスキャンを行わずにリストから格納場所を選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、次のパラメータの最低 1 つを選択する必要があります。

- [固定保管場所を使用]
- [空の保管場所を使用]
- [在庫連結]

[保管場所数]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ポップアップリストに表示する保管場所の最大数を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザが ERPLN で設定されている格納保管場所のみを品目の固定保管場所として使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[空の保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、空の保管場所がポップアップリストに表示されます。

[能力チェック]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。十分な数量の保管場所のみをポップアップリストに表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[保管場所の確認]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、品目が利用できる保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[在庫連結]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、同一品目の既存する在庫にのみ在庫を転送できます。このパラメータを選択すると、転送対象の品目の数量が正の値である場所のみがオプションリストに表示されます。ユーザは手動で場所を指定することもできます。

[最大在庫から開始]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオフにします。

[全固定保管場所を含む]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が 0 である場合でも品目の全ての固定保管場所をリストするには、このチェックボックスをオンにします。

[保管場所の事前設定]

[保管場所] フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。このパラメータをオンにした場合は、次のパラメータの最低 1 つを選択する必要があります。

- [デフォルト保管場所を使用]

- [固定保管場所を使用]
- [入庫に LN 論理を使用]
- [在庫連結]

[デフォルト保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。この場所に対して使用するデフォルトの格納保管場所を指定するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト保管場所]

[デフォルト保管場所を使用] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このトランザクションのデフォルトの格納保管場所を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の最初の固定保管場所をこのトランザクションに対するデフォルト格納保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。品目に固定保管場所が指定されていない場合は、[保管場所] フィールドは空のままになります。

[入庫に LN 論理を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。デフォルトの格納保管場所の指定に ERP LN の入庫勧告を使用するには、このチェックボックスをオンにします。

[在庫連結]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の [最大在庫から開始] パラメータが選択されているかどうかによって、最大数量か最低数量の保管場所フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。

[最大在庫から開始]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目の保管場所をデフォルト保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である保管場所を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- 5 任意で、[トランザクションパラメータ] タブで、[ラベル出力パラメータ] を選択してこのトランザクションに対するラベル出力パラメータを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダ区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- 6 [保存] をクリックします。

在庫償却トランザクションパラメータの設定

在庫償却トランザクションに対するパラメータを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[在庫償却] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。

[参照 ID 使用中]

ユーザが参照IDを指定できるようにするには、このパラメータを選択します。詳細については、14 ページの「参照 ID」を参照してください。

[扱い単位の入力を許可]

ユーザが品目番号と各ストックポイントの特徴を指定する代わりに 1 つの扱い単位を指定できるようにするには、このパラメータを選択します。詳細は、11 ページの「扱い単位」を参照してください。

[シリアル番号入力の許可]

ユーザがシリアル/ロット入力画面を使用しなくても単一のシリアル管理品目の償却を実行できるようにするには、このパラメータを選択します。

[デフォルト理由コード]

在庫調整のデフォルトの理由を指定します。ユーザはこの値を変更できます。

[単位入力]

ユーザが償却を行う測定単位を指定できるようにするには、このパラメータを選択します。例えば、1 箱は 5 個という変換係数が ERP LN において設定されていると、ユーザは 5 個ではなく 1 箱の品目数量を償却することができます。

- 5 [保存] をクリックします。

在庫増加トランザクションパラメータの設定

在庫増加トランザクションに対するパラメータを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[在庫増加] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。

[扱い単位の入力を許可]

ユーザが品目番号と各ストックポイントの特徴を指定する代わりに 1 つの扱い単位を指定できるようにするには、このパラメータを選択します。詳細は、11 ページの「扱い単位」を参照してください。

[シリアル番号入力の許可]

ユーザがシリアル/ロット入力画面を使用しなくても単一のシリアル管理品目の償却を実行できるようにするには、このパラメータを選択します。

[デフォルト理由コード]

在庫調整のデフォルトの理由を指定します。ユーザはこの値を変更できます。

[単位入力]

ユーザが償却を行う測定単位を指定できるようにするには、このパラメータを選択します。例えば、1 箱は 5 個という変換係数が ERP LN において設定されていると、ユーザは 5 個ではなく 1 箱の品目数量を償却することができます。

[ロットの追加]

ユーザがこのトランザクションを使用して新規のロットを作成できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

- 5 [保存] をクリックします。

品目照会トランザクションパラメータの設定

品目照会トランザクションに対するパラメータを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[品目照会] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。

[全保管場所の在庫を表示]

全ての保管場所で在庫レコードを表示するには、このチェックボックスをオンにします。入庫、検査、ステーjing、不合格の保管場所にある在庫を除外するには、このチェックボックスをオフにします。

- 5 [保存] をクリックします。

ジョブ予約トランザクションパラメタの設定

ジョブ予約トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[ジョブ予約] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダ区分]

トランザクションのデフォルトオーダ区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[従業員コードは数値]

従業員バッジが番号のみである場合は、このチェックボックスをオンにします。従業員バッジ番号が英数字である場合は、このチェックボックスをクリアします。

- 5 [オーダ区分パラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで、このオーダ区分に特定のパラメタを設定します。

[時間労務タイプ入力]

ユーザが時間労務タイプを指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。常にデフォルト値を使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[ワークセンタ入力]

ユーザがワークセンタを指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。常にデフォルト値を使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[原価構成要素入力]

ユーザが時間労務タイプを指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。常にデフォルト値を使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[機械入力]

ユーザが機械コードを指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。常にデフォルト値を使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[タスク入力]

ユーザがタスクを指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。常にデフォルト値を使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[最終作業の場合にオーダ報告]

部品が完了したオーダを報告するには、このチェックボックスをオンにします。このパラメタは、ジョブの最終作業の報告のみに適用されます。

[在庫への生産報告]

完了数量を在庫に入れる場合は、このチェックボックスをオンにします。このパラメータは、最終作業の場合にオーダー報告が有効な場合にのみ、ユーザがジョブの最終作業を報告するときに適用されません。

[停止詳細の報告]

ジョブを停止する際にユーザが完了数量を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[レポート設定]

段取時間を報告するには、このチェックボックスをオンにします。

[完了レポートフラグ]

ユーザが作業工程の完了時間を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。作業工程の完了時に ERP LN インタフェースを使用する必要がある場合は、このチェックボックスをオフにします。

[超過報告を認める]

オーダーに指定された数量を超過する作業工程数量をユーザが完了できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[不良の許可]

ユーザが作業工程数量を拒否できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト理由コード]

不合格のデフォルトの理由を指定します。ユーザはこの値を変更できます。

[バックフラッシュ]

オーダーに対して資材を自動出庫するには、このチェックボックスをオンにします。バックフラッシュに指定された部品表の資材が出庫されます。

[作業必要機械数に基づく機械時間の計算]

現行の作業に対して作業必要機械数の設定に基づいて機械時間を計算するには、このチェックボックスをオンにします。

[オーダー状況の確認]

スキャン時にオーダーと作業を検証するには、このチェックボックスをオンにします。スキャン時に作業の検証のみを行うには、このチェックボックスをオフにします。

6 [オーダー区分] タブで、オーダー区分ごとにこの情報を指定します。**[使用可]**

このチェックボックスを選択すると、このオーダー区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメタ]

このオーダー区分に対してオーダー特定のパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダー区分に対してデフォルトのパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

7 [保存] をクリックします。

カンバン取消トランザクションパラメタの設定

カンバン取消トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[カンバン取消] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [保存] をクリックします。

カンバン作成トランザクションパラメタの設定

カンバン作成トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[カンバン作成] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[使用中の一時カンバンID]

一時的なカンバンの作成には、このチェックボックスをオンにします。

- 5 任意で、[トランザクションパラメタ] タブで、[ラベル出力パラメタ] を選択してこのトランザクションに対するラベル出力パラメタを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダ区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- 6 [保存] をクリックします。

カンバン納入トランザクションパラメタの設定

カンバン納入トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[カンバン納入] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[倉庫へのユーザ入力]

ユーザが倉庫をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンした倉庫がカンバン在庫倉庫と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[保管場所へのユーザ入力]

ユーザが保管場所をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンした保管場所がカンバン在庫保管場所と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[ユーザ入力カンバン保管場所]

ユーザがカンバン保管場所をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンした保管場所がカンバン在庫保管場所と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[倉庫オーダ区分]

元の保管場所から移動先の場所へカンバンを移動するにはオーダ区分を指定します。

- 5 [保存] をクリックします。

カンバン復元トランザクションパラメタの設定

カンバン復元トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[カンバン復元] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 任意で、[トランザクションパラメタ] タブで、[ラベル出力パラメタ] を選択してこのトランザクションに対するラベル出力パラメタを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダ区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- [保存] をクリックします。

カンバン要求トランザクションパラメタの設定

カンバン要求トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- [トランザクション名] カラムで、[カンバン要求] を選択します。
- 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- [保存] をクリックします。

カンバンリセットトランザクションパラメタの設定

カンバンリセットトランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- [トランザクション名] カラムで、[カンバンリセット] を選択します。
- 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 任意で、[トランザクションパラメータ] タブで、[ラベル出力パラメータ] を選択してこのトランザクションに対するラベル出力パラメータを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダー区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- 5 [保存] をクリックします。

カンバン状況トランザクションパラメータの設定

カンバン状況トランザクションに対するパラメータを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[カンバン状況] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメータはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [保存] をクリックします。

扱い単位のリンクトランザクションパラメータの設定

扱い単位のリンクトランザクションに対するパラメータを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[扱い単位のリンク] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメータはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。

[扱い単位マスク]

自動生成される扱い単位番号にマスクコードを指定します。

- 5 任意で、[トランザクションパラメータ] タブで、[ラベル出力パラメータ] を選択してこのトランザクションに対するラベル出力パラメータを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダ区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- 6 [保存] をクリックします。

ロードトランザクションパラメータの設定

ロードトランザクションに対するパラメータを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[ロード] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメータはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダ区分]

トランザクションのデフォルトオーダ区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- 4 [トランザクションパラメータ] タブで、オーダ区分ごとに情報を指定します。

[封印検査を無視]

このボックスを選択して封印されていない状態にかかわらずコンテナをロードします。

[ドック検査を無視]

ロード時に手動でドック番号を入力する必要がない場合は、このボックスを選択します。

[デフォルトドック]

ロード時にドックを入力する必要がない場合は、デフォルトのドックを指定します。

注: このパラメータは、ドック検査を無視 パラメータが選択されている場合にのみ有効です。

- 5 [オーダ区分] タブで、オーダ区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]

このチェックボックスを選択すると、このオーダ区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメタ]

このオーダ区分に対してオーダ特定のパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダ区分に対してデフォルトのパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- 6 [保存] をクリックします。

場所照会トランザクションパラメタの設定

場所照会トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[保管場所照会] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダ区分]

トランザクションのデフォルトオーダ区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。
- 5 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[全保管場所の在庫を表示]

全ての保管場所で在庫レコードを表示するには、このチェックボックスをオンにします。入庫、検査、ステージング、不合格の保管場所にある在庫を除外するには、このチェックボックスをオフにします。

- 6 [保存] をクリックします。

チームの管理トランザクションパラメタの設定

チームの管理トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[チームの管理] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]
このパラメータはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]
トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- 4 [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。

[作業必要機械数に基づく製造機械時間の計算]
従業員がチームを脱退するときは、その従業員にリンクされた全ての有効なジョブが自動的に停止します。作業に対する作業必要機械数の設定に基づいて停止生産作業の有効機械時間を計算するには、このチェックボックスをオンにします。

[作業必要機械数に基づくPCS機械時間の計算]
従業員がチームを脱退するときは、その従業員にリンクされた全ての有効なジョブが自動的に停止します。PCS プロジェクトに対する作業必要機械数の設定に基づいて停止 PCS プロジェクトの有効機械時間を計算するには、このチェックボックスをオンにします。
- 5 [保存] をクリックします。

オーダ別梱包トランザクションパラメータの設定

オーダ別梱包トランザクションに対するパラメータを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[オーダ別梱包] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]
このパラメータはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]
トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダ区分]
トランザクションのデフォルトオーダ区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- 任意で、[オーダー区分パラメータ] タブで、[ラベル印刷パラメータ] を選択してこのトランザクションに対するラベル印刷パラメータを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダー区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。

- [オーダー区分] タブで、オーダー区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]

このチェックボックスを選択すると、このオーダー区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメータ]

このオーダー区分に対してオーダー特定のパラメータ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダー区分に対してデフォルトのパラメータ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- [保存] をクリックします。

出荷別梱包トランザクションパラメータの設定

出荷別梱包トランザクションに対するパラメータを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- [トランザクション名] カラムで、[出荷別梱包] を選択します。
- 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメータはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダー区分]

トランザクションのデフォルトオーダー区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- 任意で、[オーダー区分パラメータ] タブで、[ラベル印刷パラメータ] を選択してこのトランザクションに対するラベル印刷パラメータを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダー区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。以下の情報も指定します。

[指定梱包の封印に転送]

ダイレクト梱包を自動的に封印トランザクションにルーティングする場合は、このチェックボックスをオンにします。

[梱包済コンテナの封印]

このチェックボックスをオンにすると、スキャン中に自動的に梱包済コンテナを封印します。

[出荷明細の凍結]

このチェックボックスをオンにすると、事前梱包されたコンテナの内容を自動的に凍結します。

注: このフィールドは、梱包済コンテナの封印 オプションが選択されている場合にのみ有効です。

[扱い単位のスキャン]

このチェックボックスを選択すると、扱い単位が梱包されたことを確認するのではなく、梱包中の扱い単位のスキャンが強制的に実行されます。

- 5 [オーダー区分] タブで、オーダー区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]

このチェックボックスを選択すると、このオーダー区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメタ]

このオーダー区分に対してオーダー特定のパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダー区分に対してデフォルトのパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- 6 [保存] をクリックします。

梱包照会トランザクションパラメタの設定

梱包照会トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[梱包照会] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダー区分]

トランザクションのデフォルトオーダー区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- 4 [オーダー区分] タブで、オーダー区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]

このチェックボックスを選択すると、このオーダー区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメタ]

このオーダー区分に対してオーダー特定のパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダー区分に対してデフォルトのパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- 5 [保存] をクリックします。

実棚卸トランザクションパラメタの設定

実棚卸トランザクションのパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[棚卸] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[扱い単位の入力を許可]

ユーザが品目番号と各ストックポイントの特徴を指定する代わりに 1 つの扱い単位を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト理由コード]

棚卸の差異に対するデフォルトの理由コードを指定します。

[デフォルト累積値]

[累計] フィールドのデフォルト値として [はい] を使用するには、このパラメタを選択します。[いいえ] をデフォルト値で使用するには、このフィールドを空白にします。

[循環棚卸オーダの保持]

棚卸の完了後に循環棚卸オーダ番号を保持するにはこのパラメタを選択します。棚卸の完了後に循環棚卸オーダ番号を削除するにはこのパラメタを空白にします。

[在庫時間]

在庫時間を指定して棚卸で作成されたストックポイントに割り当てます。

[ロットの追加]

棚卸中にロット番号が追加されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[シリアル番号の作成]

棚卸中にシリアル番号が作成されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[システム数のリセット]

棚卸が開始したときにシステムの数量をリセットするには、このチェックボックスをオンにします。

- 5 [保存] をクリックします。

発送確定から返送トランザクションパラメタの設定

発送確定から返送トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[発送確定から返送] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダ区分]

トランザクションのデフォルトオーダ区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[シリアル入力の許可]

返品する品目の番号をユーザがスキャンできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト保管場所]

品目を返品するデフォルトの場所を指定します。

[使用中扱い単位]

返品する品目に割り当てられた扱い単位をユーザがスキャンできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[トランザクションのデフォルトオーダ区分]

倉庫オーダの作成に使用するデフォルトのオーダ区分を指定します。

[日付の事前設定]

先保管場所において品目に関連付けられている棚卸日が 1 日だけの場合に、返品された品目の棚卸日を自動指定するには、このチェックボックスをオンにします。

[前指定ロット]

先保管場所において品目に関連付けられているロット番号が 1 つだけの場合に、返品された品目のロット番号を自動指定するには、このチェックボックスをオンにします。

[前指定倉庫]

送付先保管場所のある倉庫を自動指定するには、このチェックボックスをオンにします。

- 5 [保存] をクリックします。

ピットランザクションパラメタの設定

ピットランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[ピック] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダ区分]

トランザクションのデフォルトオーダ区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[オーダ別デフォルト]

「オーダ別」ピック方式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。ユーザはこの方法を変更できます。

[実行別デフォルト]

「実行別」ピック方式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。ユーザはこの方法を変更できます。

[任務別デフォルト]

「任務別」ピック方式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。ユーザはこの方法を変更できます。

[倉庫別フィルタ]

ユーザが自分の現倉庫にある品目のみをピックできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[シリアルピック導入済]

ユーザがシリアル化品目をピックできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[損失資材オーダ区分]

損失資材を使用するには、オーダ区分を指定します。

- 5 [オーダ区分パラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで、このオーダ区分に特定のパラメタを設定します。

[一覧内の行数]

ピックリストに表示する行の最大数を指定します。ピックに利用可能な品目の数がこの数値を超えた場合、リストは切り捨てられます。品目がピックされるとリストから削除され、切捨て済の品目に対してスペースが表示されます。

[カートの場所]

ピック時に品目の転送先となるカートの場所を指定します。

[ステージ場所]

ピックされた品目のステージ場所を指定します。

[損失資材使用中]

ユーザがピック中の損失資材を報告できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、ロット資材倉庫、損失資材保管場所、またはその両方を指定する必要があります。

[損失資材倉庫]

[損失資材使用中] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。損失資材の転送先となる倉庫を指定します。任意で、検索条件フィールドを空欄のままにすると、損失資材の保管先にもとの倉庫が使用できます。

[損失資材保管場所]

[損失資材使用中] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。損失資材の転送先となる保管場所を指定します。任意で、検索条件フィールドを空欄のままにすると、損失資材の保管先にもとの倉庫が使用できます。

[超過ピック可(販売、移動、生産のみ)]

ユーザが ERP LN の標準許容範囲に準拠する必要数量より多い数量をピックできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[カスケード]

[超過ピック可(販売、移動、生産のみ)] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。その他のアドバイス行に対しピックを考慮するには、このチェックボックスをオンにします。ピックにおけるひとつのアドバイス行が他へ影響するのを防ぐには、このチェックボックスをオフにします。

[出庫発行]

品目ピック時にアウトバウンドアドバイスを発行するには、このチェックボックスをオンにします。

[品目番号の表示]

ピック中の品目の番号を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[品目番号のスキャン]

ユーザが品目番号をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンした品目番号がピックリストの品目番号と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[保管場所の表示]

ピック中の品目の保管場所を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[スキャン保管場所]

ユーザが保管場所をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンした保管場所がピックリスト保管場所と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[保管場所の変更]

ユーザがピックリストとは異なった保管場所から品目をピックできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、このパラメータによって [保管場所のスキャン] パラメータが上書きされます。

[ロット番号の表示]

ピック中の品目のロット番号を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[ロット番号のスキャン]

ユーザがロット番号をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンしたロット番号がピックリストのロット番号と一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[ロット番号の変更]

ユーザがピックリストとは異なったロット番号を持つ品目をピックできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、このパラメータによって [ロット番号のスキャン] パラメータが上書きされます。

[日付表示]

ピック中の品目の在庫日付を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[日付のスキャン]

ユーザが棚卸日をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンした在庫日付がピックリストの在庫日付と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[棚卸日の変更]

ユーザがピックリストとは異なった在庫日付を持つ品目をピックできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、このパラメータによって [日付のスキャン] パラメータが上書きされます。

[扱い単位の表示]

ピック中の品目に割り当てられている扱い単位を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[扱い単位のスキャン]

ユーザが扱い単位をスキャンしなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。スキャンした扱い単位がピックリストの扱い単位と一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

[シリアル番号の変更]

ユーザがピックリストとは異なったロット番号を持つ品目をピックできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

- 6 任意で、[オーダー区分パラメータ] タブで、[ラベル印刷パラメータ] を選択してこのトランザクションに対するラベル印刷パラメータを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダー区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- 7 [オーダー区分] タブで、オーダー区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]

このチェックボックスを選択すると、このオーダー区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメータ]

このオーダー区分に対してオーダー特定のパラメータ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダー区分に対してデフォルトのパラメータ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- 8 [保存] をクリックします。

格納トランザクションパラメタの設定

格納トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[格納] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダ区分]

トランザクションのデフォルトオーダ区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[受入番号別格納]

ユーザが受入番号をスキャンする際に格納品目を表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。ユーザが受入番号をスキャンする際に格納品目を表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。

[格納一覧別格納]

品目の格納にERP LNの Storage List logicを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。

[参照 ID 使用中]

トランザクション開始時にユーザが参照 ID を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。詳細については、14 ページの「参照 ID」を参照してください。

- 5 [オーダ区分パラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで、このオーダ区分に特定のパラメタを設定します。

[単位入力]

ユーザが測定単位のみを指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[オーダ単位別格納]

オーダ別に格納品目をソートするには、このチェックボックスをオンにします。場所別に一覧をソートするには、このチェックボックスをオンにします。

[入庫発行]

入庫オーダを格納に自動発行するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト実行番号]

格納のデフォルト実行番号を指定します。

[保管場所ポップアップ]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザがスキャンを行わずにリストから格納場所を選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、次のパラメータの最低 1 つを選択する必要があります。

- [固定保管場所を使用]
- [空の保管場所を使用]
- [在庫連結]

[保管場所数]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ポップアップリストに表示する保管場所の最大数を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザがERPLNで設定されている格納保管場所のみを品目の固定保管場所として使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[空の保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、空の保管場所がポップアップリストに表示されます。

[能力チェック]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、能力が十分にある保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[保管場所の確認]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、品目が利用できる保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[在庫連結]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、同一品目の既存する在庫にのみ在庫を転送できます。このパラメータを選択すると、転送対象の品目の数量が正の値である場所のみがオプションリストに表示されます。ユーザは手動で場所を指定することもできます。

[最大在庫から開始]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオフにします。

[全固定保管場所を含む]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が 0 である場合でも品目の全ての固定保管場所をリストするには、このチェックボックスをオンにします。

[保管場所の事前設定]

[保管場所] フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。このパラメータをオンにした場合は、次のパラメータの最低 1 つを選択する必要があります。

- [デフォルト保管場所を使用]
- [固定保管場所を使用]
- [在庫に LN 論理を使用]

• [在庫連結]

[デフォルト保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。この場所に対して使用するデフォルトの格納保管場所を指定するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト保管場所]

[デフォルト保管場所を使用] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このトランザクションのデフォルトの格納保管場所を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の最初の固定保管場所をこのトランザクションに対するデフォルト格納保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。品目に固定保管場所が指定されていない場合は、[保管場所] フィールドは空のままになります。

[入庫に LN 論理を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。デフォルトの格納保管場所の指定に ERP LN の入庫勧告を使用するには、このチェックボックスをオンにします。

[在庫連結]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の [最大在庫から開始] パラメータが選択されているかどうかに従って、最大数量が最低数量の保管場所フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。

[最大在庫から開始]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目の保管場所をデフォルト保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である保管場所を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

[クロスドッキング有効]

ユーザがこのトランザクション内でクロスドッキングを実行できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

[クロスドック前に扱い単位ラベルを印刷]

[クロスドッキング有効] が選択されているとこのパラメータが利用できます。クロスドックトランザクションの実行前に、扱い単位バーコードラベルの印刷を選択します。

[クロスドック前にシリアルラベルを印刷]

[クロスドッキング有効] が選択されているとこのパラメータが利用できます。クロスドックトランザクションの実行前に、シリアル番号バーコードラベルの印刷を選択します。

6 任意で、[オーダー区分パラメータ] タブで、[ラベル印刷パラメータ] を選択してこのトランザクションに対するラベル印刷パラメータを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダー区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。

7 [オーダー区分] タブで、オーダー区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]

このチェックボックスを選択すると、このオーダー区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメタ]

このオーダ区分に対してオーダ特定のパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダ区分に対してデフォルトのパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- 8 [保存] をクリックします。

入庫トランザクションパラメタの設定

受入トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[入庫] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダ区分]

トランザクションのデフォルトオーダ区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- 4 [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。
- 5 [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。

[参照 ID 使用中]

トランザクション開始時にユーザが参照 ID を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。詳細については、14 ページの「参照 ID」を参照してください。

- 6 [オーダ区分パラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで、このオーダ区分に特定のパラメータを設定します。

[倉庫別フィルタ]

ユーザが自分の現倉庫にある品目のみを入庫できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[LN 活動の上書]

このトランザクションの障害となる LN 活動を上書きするには、このチェックボックスをオンにします。

[LN 活動の実行]

現行の作業にある後続の自動タスクを全て実行するには、このチェックボックスをオンにします。トランザクション内のタスクが失敗すると、トランザクション全体が失敗して、エラーメッセージが表示され

ます。現行のトランザクション外にある後続の自動タスクを実行するには、このチェックボックスをオフにします。トランザクション外にあるタスクが失敗しても、エラーメッセージは表示されません。

[梱包伝票数量をオープン数量に設定]

ユーザが入庫処理を行う測定単位を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。例えば、1箱は5個という変換係数がERP LNにおいて設定されていると、ユーザは5個ではなく1箱の品目数量を入庫することができます。

[ユーザの最終入庫入力を認める]

ユーザが入庫品目を検査するかどうかを選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。ERP LNの設定に従って品目を検査するかどうかを決定するには、このチェックボックスをオフにします。

[ロット証明コード入力]

ユーザが証明コードを指定して、ドキュメントをロット番号にリンク付けできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[受入済数を入力]

ユーザが受入数量を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。梱包伝票の数量を自動的に入庫処理するには、このチェックボックスをオフにします。

[受入数量を梱包伝票数量を事前設定]

[受入済数を入力] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。梱包伝票の数量を [受入数量] フィールドのデフォルト値として使用するには、このチェックボックスをオンにします。ユーザはこの値を変更できます。

[検査フラグの入力]

ユーザが受入品目を検査できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[棚卸日の入力]

受入られた日付管理品目に対する棚卸日をユーザが指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。品目の保存期間に現在の日付を追加した日付を棚卸日に常に使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。

[受入日の入力]

ユーザが受入日を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[カンバン ID の入力]

ユーザがオーダ番号と品目番号の代わりにカンバン ID をスキャンできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[在庫時間]

任意で、日付管理された品目の受入を記録する日時を指定します。

[単位入力]

ユーザが入庫処理を行う測定単位を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。例えば、1箱は5個という変換係数がERP LNにおいて設定されていると、ユーザは5個ではなく1箱の品目数量を入庫することができます。

[格納]

ユーザがこのトランザクション内で格納トランザクションを実行できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

[入庫発行]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。入庫オーダを格納に自動発行するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト実行番号]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。この値は常にトランザクションによって使用されます。

[保管場所ポップアップ]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザがスキャンを行わずにリストから格納場所を選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、次のパラメータの最低 1 つを選択する必要があります。

- [固定保管場所を使用]
- [空の保管場所を使用]
- [在庫連結]

[保管場所数]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ポップアップリストに表示する保管場所の最大数を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザがERPLNで設定されている格納保管場所のみを品目の固定保管場所として使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[空の保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、空の保管場所がポップアップリストに表示されます。

[能力チェック]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、能力が十分にある保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[保管場所の確認]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、品目が利用できる保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[在庫連結]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、同一品目の既存する在庫にのみ在庫を転送できます。このパラメータを選択すると、転送対象の品目の数量が正の値である場所のみがオプションリストに表示されます。ユーザは手動で場所を指定することもできます。

[最大在庫から開始]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオフにします。

[全固定保管場所を含む]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が 0 である場合でも品目の全ての固定保管場所をリストするには、このチェックボックスをオンにします。

[保管場所の事前設定]

[保管場所] フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。このパラメータをオンにした場合は、次のパラメータの最低 1 つを選択する必要があります。

- [デフォルト保管場所を使用]
- [固定保管場所を使用]
- [入庫に LN 論理を使用]
- [在庫連結]

[デフォルト保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。この場所に対して使用するデフォルトの格納保管場所を指定するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト保管場所]

[デフォルト保管場所を使用] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このトランザクションのデフォルトの格納保管場所を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の最初の固定保管場所をこのトランザクションに対するデフォルト格納保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。品目に固定保管場所が指定されていない場合は、[保管場所] フィールドは空のままになります。

[入庫に LN 論理を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。デフォルトの格納保管場所の指定に ERP LN の入庫勧告を使用するには、このチェックボックスをオンにします。

[在庫連結]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の [最大在庫から開始] パラメータが選択されているかどうかに従って、最大数量が最低数量の保管場所フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。

[最大在庫から開始]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目の保管場所をデフォルト保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である保管場所を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

[クロスドッキング有効]

ユーザがこのトランザクション内でクロスドッキングを実行できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

[クロスドック前に扱い単位ラベルを印刷]

[クロスドッキング有効] が選択されているとこのパラメータが利用できます。クロスドックトランザクションの実行前に、扱い単位バーコードラベルの印刷を選択します。

[クロスドック前にシリアルラベルを印刷]

[クロスドッキング有効] が選択されているとこのパラメータが利用できます。クロスドックトランザクションの実行前に、シリアル番号バーコードラベルの印刷を選択します。

- 7 任意で、[オーダー区分パラメータ] タブで、[ラベル印刷パラメータ] を選択してこのトランザクションに対するラベル印刷パラメータを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダー区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- 8 [オーダー区分] タブで、オーダー区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]
このチェックボックスを選択すると、このオーダー区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメータ]
このオーダー区分に対してオーダー特定のパラメータ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダー区分に対してデフォルトのパラメータ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。
- 9 [保存] をクリックします。

出庫発行トランザクションパラメータの設定

出庫発行トランザクションに対するパラメータを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[出庫発行] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]
このパラメータはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]
トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダー区分]
トランザクションのデフォルトオーダー区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。
- 4 [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。

[オーダー別デフォルト]
デフォルトで「オーダー別」検索方式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。ユーザはこの方法を変更できます。

[実行別デフォルト]
デフォルトで「実行別」検索方式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。ユーザはこの方法を変更できます。

[任務別デフォルト]
デフォルトで「任務別」検索方式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。ユーザはこの方法を変更できます。

- 5 [オーダー区分パラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで、このオーダー区分に特定のパラメータを設定します。

[梱包済全明細のチェック]

アドバイス上のすべての明細がまだ梱包されていない場合、このチェックボックスをオンにして出庫発行するのを防ぎます。

[ピック済全明細のチェック]

アドバイス上のすべての明細がまだピックされていない場合、このチェックボックスをオンにして出庫発行するのを防ぎます。

[出荷の凍結]

出庫が発行される際またはピックリストが確認される際に出荷を凍結するには、このチェックボックスをオンにします。

[出荷確認]

出庫が発行される際またはピックリストが確認される際に出荷を凍結するには、このチェックボックスをオンにします。

[任務別フィルタ]

オーダーを発行する際に、ユーザが任務別で明細をフィルターできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[実行別フィルタ]

オーダーを発行する際に、ユーザが実行別で明細をフィルタできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[梱包伝票の印刷]

出荷の梱包伝票を印刷するには、このチェックボックスをオンにします。

[コピー数]

[梱包伝票の印刷] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。梱包伝票のコピー数を指定します。

[デバイス]

[梱包伝票の印刷] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。梱包伝票のコピー元のデバイスを指定します。

[梱包伝票レポート]

[梱包伝票の印刷] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。コピーする梱包伝票レポートを指定します。

[積荷表の印刷]

出荷の積荷表を印刷するには、このチェックボックスをオンにします。

[コピー数]

[積荷表の印刷] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。積荷表のコピー数を指定します。

[デバイス]

[積荷表の印刷] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。積荷表のコピー元のデバイスを指定します。

[積荷表レポート]

[積荷表の印刷] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。コピーする積荷表レポートを指定します。

- 6 [オーダー区分] タブで、オーダー区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]

このチェックボックスを選択すると、このオーダー区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメタ]

このオーダー区分に対してオーダー特定のパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダー区分に対してデフォルトのパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- 7 [保存] をクリックします。

再梱包トランザクションパラメタの設定

再梱包トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。

- 2 [トランザクション名] カラムで、[再梱包] を選択します。

- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダー区分]

トランザクションのデフォルトオーダー区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- 4 任意で、[オーダー区分パラメタ] タブで、[ラベル印刷パラメタ] を選択してこのトランザクションに対するラベル印刷パラメタを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダー区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。

- 5 [オーダー区分] タブで、オーダー区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]

このチェックボックスを選択すると、このオーダー区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメタ]

このオーダー区分に対してオーダー特定のパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダー区分に対してデフォルトのパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- 6 [保存] をクリックします。

作業報告トランザクションパラメタの設定

作業報告トランザクションのパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[作業報告] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[シリアルによる参照を許可]

トランザクションの開始時にユーザがシリアル番号をスキャンできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。シリアル番号のスキャンにより、オーダ番号、品目番号、シリアル番号が自動的に指定されます。

[超過報告を認める]

オーダに指定された数量を超過する作業工程数量をユーザが完了できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[完了の再確認]

作業の完了についてプロンプトでユーザに確認を促すには、このチェックボックスをオンにします。

[前の報告済数量の表示]

過去の作業における数量報告に基づいて、現行の作業のオープン数量を計算するには、このチェックボックスをオンにします。

[不合格累計数量の表示]

オーダにおける不合格の数量を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[ユーザー入力完了フラグ]

ユーザが作業工程の完了時間を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。全数量が完了した時のみ作業を完了できるようにするには、このチェックボックスを空白にします。

[バックフラッシュ]

完了の報告時に品目をバックフラッシュするには、このチェックボックスをオンにします。

[サブ組立を在庫に直ちに転記]

このパラメタは、現行の作業がサブコントラクトの作業に先行する場合にのみ適用されます。これを選択すると、作業報告があった時点で直ちにサブ組立を在庫に転記します。

- 5 任意で、[トランザクションパラメタ] タブで、[ラベル出力パラメタ] を選択してこのトランザクションに対するラベル出力パラメタを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダ区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- 6 [保存] をクリックします。

生産報告トランザクションパラメタの設定

生産報告トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[生産報告] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[参照 ID 使用中]

トランザクション開始時にユーザが参照 ID を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。詳細については、14 ページの「参照 ID」を参照してください。

[デフォルトシフト]

ユーザが生産数量を報告する場合に生産履歴に記録するデフォルトシフトコードを指定してください。ユーザはこの値を変更できます。

[数量を前回作業工程から事前設定]

前回作業工程から報告された完了数量を数量として使用するには、このチェックボックスをオンにします。

[バックフラッシュ]

完了の報告時に品目をバックフラッシュするには、このチェックボックスをオンにします。

[不合格数量の入力許可]

ユーザが数量を不合格とできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト理由コード]

[不合格数量の入力許可] パラメタを選択している場合のみ、このパラメタが表示されます。不合格のデフォルトの理由コードを指定します。ユーザはこの値を変更できます。

[ロット番号をオーダ番号にデフォルト設定]

オーダ番号をデフォルトロットコードとして使用するには、このチェックボックスをオンにします。ユーザはこの値を変更できます。

[超過報告を認める]

オーダに指定された数量を超過する作業工程数量をユーザが完了できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[数量をオープン数量に事前設定]

オープン数量をデフォルト数量として使用するには、このチェックボックスをオンにします。ユーザはこの値を変更できます。

[最新作業が完了の場合にのみ完了報告]

すべての作業数量の完了後にユーザが生産数量のみを完了できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[完了をいいえにデフォルト設定]

[完了] フィールドで [いいえ] をデフォルト値として自動指定するには、このチェックボックスをオンにします。ユーザはこの値を変更できます。

[完了フラグの入力許可]

ユーザがオーダーの完了時間を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。ERP LN インタフェースを使用してオーダーを完了させるには、このチェックボックスをオフにします。

[カンバン ID の入力]

ユーザが従業員 ID を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[追加シリアルを作成を許可]

ユーザが未割当の任意のシリアル番号を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。ユーザが現行の生産オーダーに割当済のシリアル番号を指定しなければならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[在庫への生産報告]

オーダーの完了報告時に品目を在庫に受け入れるには、このチェックボックスをオンにします。

[格納]

[在庫への生産報告] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザがこのトランザクション内で格納トランザクションを実行できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

[入庫発行]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。入庫オーダーを格納に自動発行するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト実行番号]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。この値は常にトランザクションによって使用されます。

[保管場所ポップアップ]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザがスキャンを行わずにリストから格納場所を選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、次のパラメータの最低 1 つを選択する必要があります。

- [固定保管場所を使用]
- [空の保管場所を使用]
- [在庫連結]

[保管場所数]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ポップアップリストに表示する保管場所の最大数を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザが ERPLN で設定されている格納保管場所のみを品目の固定保管場所として使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[空の保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、空の保管場所がポップアップリストに表示されます。

[能力チェック]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、能力が十分にある保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[保管場所の確認]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、品目が利用できる保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[在庫連結]

このチェックボックスをオンにすると、同一品目の既存する在庫にのみ在庫を転送できます。このパラメータを選択すると、転送対象の品目の数量が正の値である場所のみがオプションリストに表示されます。ユーザは手動で場所を指定することもできます。

[最大在庫から開始]

[最大在庫から開始] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオフにします。

[全固定保管場所を含む]

[最大在庫から開始] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。

[保管場所の事前設定]

[保管場所] フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。このパラメータをオンにした場合は、次のパラメータの最低 1 つを選択する必要があります。

- [デフォルト保管場所を使用]
- [固定保管場所を使用]
- [入庫に LN 論理を使用]
- [在庫連結]

[デフォルト保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。この場所に対して使用するデフォルトの格納保管場所を指定するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト保管場所]

[デフォルト保管場所を使用] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このトランザクションのデフォルトの格納保管場所を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の最初の固定保管場所をこのトランザクションに対するデフォルト格納保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。品目に固定保管場所が指定されていない場合は、[保管場所] フィールドは空のままになります。

[入庫に LN 論理を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。デフォルトの格納保管場所の指定に ERP LN の入庫勧告を使用するには、このチェックボックスをオンにします。

[在庫連結]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の [最大在庫から開始] パラメータが選択されているかどうかによって、最大数量か最低数量の保管場所フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。

[最大在庫から開始]

数量が最大である品目の保管場所をデフォルト保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である保管場所を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

[クロスドッキング有効]

ユーザがこのトランザクション内でクロスドッキングを実行できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

[クロスドック前に扱い単位ラベルを印刷]

[クロスドッキング有効] が選択されているとこのパラメータが利用できます。クロスドックトランザクションの実行前に、扱い単位バーコードラベルの印刷を選択します。

[クロスドック前にシリアルラベルを印刷]

[クロスドッキング有効] が選択されているとこのパラメータが利用できます。クロスドックトランザクションの実行前に、シリアル番号バーコードラベルの印刷を選択します。

- 任意で、[トランザクションパラメータ] タブで、[ラベル出力パラメータ] を選択してこのトランザクションに対するラベル出力パラメータを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダ区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- [保存] をクリックします。

従業員のリセットトランザクションパラメータの設定

従業員のリセットトランザクションに対するパラメータを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- [トランザクション名] カラムで、[従業員のリセット] を選択します。
- 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメータはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [保存] をクリックします。

資材返品トランザクションパラメタの設定

資材返品トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[資材返品] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[扱い単位の入力を許可]

ユーザが品目番号と各ストックポイントの特徴を指定する代わりに 1 つの扱い単位を指定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[格納]

ユーザがこのトランザクション内で格納トランザクションを実行できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト実行番号]

[格納] パラメタを選択している場合のみ、このパラメタが表示されます。任意で、格納のデフォルト実行番号を指定します。ユーザはこの値を変更できます。

[入庫発行]

[格納] パラメタを選択している場合のみ、このパラメタが表示されます。入庫オーダを格納に自動発行するには、このチェックボックスをオンにします。

[保管場所の事前設定]

[保管場所] フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。このパラメタをオンにした場合は、次のパラメタの最低 1 つを選択する必要があります。

- [デフォルト保管場所を使用]
- [固定保管場所を使用]
- [入庫に LN 論理を使用]
- [在庫連結]

[在庫連結]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の [最大在庫から開始] パラメータが選択されているかどうかによって、最大数量か最低数量の保管場所フィールドを事前設定するには、このチェックボックスをオンにします。

[最大在庫から開始]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目の保管場所をデフォルト保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である保管場所を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

[デフォルト保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。この場所に対して使用するデフォルトの格納保管場所を指定するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルト保管場所]

[デフォルト保管場所を使用] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このトランザクションのデフォルトの格納保管場所を指定します。

[固定保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の最初の固定保管場所をこのトランザクションに対するデフォルト格納保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。品目に固定保管場所が指定されていない場合は、[保管場所] フィールドは空のままになります。

[入庫に LN 論理を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。デフォルトの格納保管場所の指定に ERP LN の入庫勧告を使用するには、このチェックボックスをオンにします。

[保管場所ポップアップ]

[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザがスキャンを行わずにリストから格納場所を選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。[格納] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ユーザがスキャンを行わずにリストから格納場所を選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、次のパラメータの最低 1 つを選択する必要があります。

- [固定保管場所を使用]
- [空の保管場所を使用]
- [在庫連結]

[保管場所数]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。ポップアップリストに表示する保管場所の最大数を指定します。

[在庫連結]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、同一品目の既存する在庫にのみ在庫を転送できます。このパラメータを選択すると、転送対象の品目の数量が正の値である場所のみがオプションリストに表示されます。ユーザは手動で場所を指定することもできます。

[最大在庫から開始]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が最大である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。数量が最小である品目から先に保管場所が表示されるようにするには、このチェックボックスをオフにします。

[全固定保管場所を含む]

[在庫連結] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。数量が 0 である場合でも品目の全ての固定保管場所をリストするには、このチェックボックスをオンにします。

[空の保管場所を使用]

[保管場所ポップアップ] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、空の保管場所がポップアップリストに表示されます。

[能力チェック]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、能力が十分にある保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[保管場所の確認]

[空の保管場所] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。このチェックボックスをオンにすると、品目が利用できる保管場所のみがポップアップリストに表示されます。

[固定保管場所を使用]

[保管場所の事前設定] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。品目の最初の固定保管場所をこのトランザクションに対するデフォルト格納保管場所として使用するには、このチェックボックスをオンにします。品目に固定保管場所が指定されていない場合は、[保管場所] フィールドは空のままになります。

- 5 [保存] をクリックします。

封印トランザクションパラメータの設定

封印トランザクションに対するパラメータを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[封印] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメータはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

[デフォルトオーダ区分]

トランザクションのデフォルトオーダ区分を選択します。ユーザはこの値を変更できます。

- 4 [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。

[EXMIによるラベルの印刷]

このフィールドを選択して、標準 BarTender ロジックを使用せずに EXAM アプリケーションを使用してラベルを印刷します。

[出荷明細の凍結]

封印されている場合の梱包に関連する出荷明細の凍結や、未封印の場合の明細の凍結解除を自動で行うには、このチェックボックスをオンにします。

- 5 [オーダー区分] タブで、オーダー区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]

このチェックボックスを選択すると、このオーダー区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメタ]

このオーダー区分に対してオーダー特定のパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダー区分に対してデフォルトのパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

- 6 [保存] をクリックします。

出荷トランザクションパラメタの設定

トランセット保守フォームを使用して、出荷トランザクションパラメタを設定します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[出荷処理] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [オーダー区分パラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで、このオーダー区分に特定のパラメタを設定します。

[出荷確認許可]

ユーザが出荷を確認できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[未ロードがある場合に却下]

[出荷確認許可] パラメタを選択している場合のみ、このパラメタが表示されます。明細のロードに漏れがあった場合、このチェックボックスをオンにして出荷を確認するのを防ぎます。

[未ロードがある場合に警告]

[出荷確認許可] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。未ロードがある場合に警告するには、このチェックボックスをオンにします。

[出荷の凍結許可]

出荷を凍結するには、このチェックボックスを選択します。

[未梱包がある場合に却下]

[出荷の凍結許可] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。明細のロードに漏れがあった場合、このチェックボックスをオンにして出荷を凍結するのを防ぎます。

[未梱包がある場合に警告]

[出荷の凍結許可] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。未ロードがある場合に警告するには、このチェックボックスをオンにします。

[出荷の凍結解除の許可]

ユーザ出荷の凍結解除を許可するには、このチェックボックスをオンにします。

[梱包伝票の印刷]

出荷の梱包伝票を印刷するには、このチェックボックスをオンにします。

[コピー数]

[梱包伝票の印刷] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。梱包伝票のコピー数を指定します。

[梱包伝票レポート]

[梱包伝票の印刷] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。コピーする梱包伝票レポートを指定します。

[積荷表の印刷]

出荷の積荷表を印刷するには、このチェックボックスをオンにします。

[コピー数]

[積荷表の印刷] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。積荷表のコピー数を指定します。

[積荷表レポート]

[積荷表の印刷] パラメータを選択している場合のみ、このパラメータが表示されます。コピーする積荷表レポートを指定します。

5 [オーダー区分] タブで、オーダー区分ごとにこの情報を指定します。

[使用可]

このチェックボックスを選択すると、このオーダー区分をこのトランザクションで使用することができます。

[特定パラメタ]

このオーダー区分に対してオーダー特定のパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このオーダー区分に対してデフォルトのパラメタ設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。

6 [保存] をクリックします。

扱い単位の分割トランザクションパラメタの設定

扱い単位の分割トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[扱い単位の分割] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 任意で、[トランザクションパラメタ] タブで、[ラベル出力パラメタ] を選択してこのトランザクションに対するラベル出力パラメタを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダ区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- 5 [保存] をクリックします。

シフトの開始/中止トランザクションパラメタの設定

シフトの開始/中止トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[シフトの開始/中止] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[デフォルトシフト]

このトランザクションのデフォルトのシフトコードを指定します。ユーザはこの値を変更できます。

[作業必要機械数に基づく製造機械時間の計算]

従業員がシフトを終了するときは、その従業員にリンクされた全ての有効なジョブが自動的に停止します。作業に対する作業必要機械数の設定に基づいて停止生産作業の有効機械時間を計算するには、このチェックボックスをオンにします。

[作業必要機械数に基づくPCS機械時間の計算]

従業員がシフトを終了するときは、その従業員にリンクされた全ての有効なジョブが自動的に停止します。PCS プロジェクトに対する作業必要機械数の設定に基づいて停止 PCS プロジェクトの有効機械時間を計算するには、このチェックボックスをオンにします。

- 5 [保存] をクリックします。

タスクの設定

- 1 タスクフォームを開きます。
- 2 以下の情報を指定します：

[タスクコード]

基本的なタスクを実行する時間が Factory Track でどのように識別されるかを定義するタスクコードを指定します。これは必須フィールドです。

[記述]

タスクコードで表される処理の説明を指定します。

[ERP に転記]

基盤となる ERP にタスクの実行に費やした時間を転記する場合に選択します。

[ERP タスクコード]

タスクに費やした時間を ERP に転記する際に使用するコードを指定します。このコードは、基盤となる ERP で有効かつアクティブなものでなければなりません。そうしないと、このタスクに関連する時間は正しく転記されません。[ERP に転記] オプションが選択されていない場合、このフィールドは使用できません。

[有給]

このタスクに関連付けられている時間を給与システム内で有給として分類するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、このタスクに関連付けられている時間は無給として分類されます。このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。

[有効]

このタスクを有効にして、ユーザがこのタスクに対して時間を予約できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合にこのタスクに対して時間を予約しようとすると、強制停止されます。

[一般タスク]

このタスクを間接タスクではなく、一般タスクとして指定するには、このチェックボックスをオンにします。一般タスクはオーダまたはプロジェクトにリンクされます。一般タスクに対して報告された時間は、タスクコードではなく、そのタスクにリンクされているオーダまたはプロジェクトに対して報告されます。一般タスクを実行できるのは、経過時間を使用できるように設定された従業員だけです。

- 3 [一般タスク] チェックボックスをオンにした場合は、このタスクにオーダまたはプロジェクトをリンクするために、[一般タスク] セクションでこの情報を指定します。

注: 一般タスクセクションと関連するフィールドは、[一般タスク] チェックボックスがオンになっている場合にのみ表示されます。

[ファシリティ]

ファシリティを指定します。

[オーダ区分]

オーダ区分を指定します。

[[オーダ番号] または [プロジェクト番号]]

選択したオーダ区分に応じてオーダ番号またはプロジェクト番号を指定します。

[接尾辞]

このフィールドは、オーダ区分が [生産オーダ]、[サービスオーダ]、または [段取] の場合にのみ表示されます。オーダ接尾辞を指定します。

[作業]

このフィールドは、オーダ区分が [生産オーダ]、[サービスオーダ]、または [段取] の場合にのみ表示されます。作業を指定します。

[タスクコード]

該当する場合は、タスクコードが表示されます。

[ワークセンタ]

該当する場合は、ワークセンタが表示されます。

[品目]

該当する場合は、品目が表示されます。

[機械]

該当する場合は、機械が表示されます。

- 4 [保存] をクリックします。

TT休憩開始終了トランザクションパラメタの設定

TT休憩開始終了モバイルスキャナトランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 グリッドで [TT 休憩開始終了] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します:

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。

[重複保護 (HH:MM:SS)]

このパラメータを使用して重複するトランザクションを防ぎます。HH:MM:SS 形式を使用して、あるトランザクションの後に同じトランザクションが送信された場合、それを最初のトランザクションの重複だとみなす最大期間を指定します。たとえば、[00:01:00] という値を指定した場合に、ユーザが 1 分間以内に 2 回の出社トランザクションを実行すると、2 回目の出社トランザクションは重複とみなされます。重複トランザクションが発生すると、ユーザにその旨が知らされ、そのトランザクションを処理するかキャンセルするかを尋ねるメッセージが表示されます。

- 5 [保存] をクリックします。

TT 出退社トランザクションパラメータの設定

TT 出退社モバイルスキャナトランザクションに対するパラメータを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメータを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメータを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 グリッドで [TT 出退社] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメータ] タブの [パラメータ] と [値] カラムで次のパラメータを設定します。

[形式は HH:MM:SS (重複保護)]

このパラメータを使用して重複するトランザクションを防ぎます。HH:MM:SS 形式を使用して、あるトランザクションの後に同じトランザクションが送信された場合、それを最初のトランザクションの重複だとみなす最大期間を指定します。たとえば、[00:01:00] という値を指定した場合に、ユーザが 1 分間以内に 2 回の出社トランザクションを実行すると、2 回目の出社トランザクションは重複とみなされます。重複トランザクションが発生すると、ユーザにその旨が知らされ、そのトランザクションを処理するかキャンセルするかを尋ねるメッセージが表示されます。

- 5 [保存] をクリックします。

TTジョブ予約トランザクションパラメタの設定

ジョブ予約トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 グリッドで [TT ジョブ予約] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[間接ジョブを認める]

従業員がこのトランザクションを使用して間接タスクを開始できるようにするには、[1] を指定します。従業員がこのトランザクションを使用して間接タスクを開始できないようにするには、[0] を指定します。

- 5 [保存] をクリックします。

TT昼食開始/終了トランザクションパラメタの設定

TT昼食開始/終了モバイルスキャナトランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 グリッドで [TT 昼食開始/終了] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[重複保護 (HH:MM:SS)]

このパラメタを使用して重複するトランザクションを防ぎます。HH:MM:SS 形式を使用して、あるトランザクションの後に同じトランザクションが送信された場合、それを最初のトランザクションの重複だとみなす最大期間を指定します。たとえば、[00:01:00] という値を指定した場合に、ユーザが 1 分間以内に 2 回の出社トランザクションを実行すると、2 回目の出社トランザクションは重複とみなされます。重複トランザクションが発生すると、ユーザにその旨が知らされ、そのトランザクションを処理するかキャンセルするかを尋ねるメッセージが表示されます。

- 5 [保存] をクリックします。

TT 出退勤トランザクションパラメタの設定

TT 出退勤モバイルスキャナトランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 グリッドで [TT 出退勤] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します:

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [保存] をクリックします。

扱い単位のリンク解除トランザクションパラメタの設定

扱い単位のリンク解除トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[扱い単位のリンク解除] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します:

[自動補填倉庫]

このパラメタはこのトランザクションに対する効果はありません。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [保存] をクリックします。

未計画資材出庫パラメタの設定

未計画資材出庫トランザクションに対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。

- 1 トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫のみ適用されるパラメタを設定している場合、その倉庫は [倉庫] フィールドに表示されます。アプリケーション全体にデフォルトで適用される一般パラメタを設定している場合、[倉庫] フィールドは空白となり利用できません。
- 2 [トランザクション名] カラムで、[未計画資材出庫] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[自動補填倉庫]

ユーザに割り当てられている倉庫をトランザクションの倉庫フィールドに事前入力するには、このチェックボックスをオンにします。必要な場合は、ユーザはこの値をトランザクション毎に変更できます。

[正常作動メッセージ]

トランザクションが正常に完了したときに成功のメッセージを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

- 4 [トランザクションパラメタ] タブの [パラメタ] と [値] カラムで次のパラメタを設定します。

[出庫の生成]

資材の出庫時に在庫引当を生成するには、このチェックボックスをオンにします。

[出庫発行]

資材の出庫時に在庫引当を発行するには、このチェックボックスをオンにします。

- 5 任意で、[トランザクションパラメタ] タブで、[ラベル出力パラメタ] を選択してこのトランザクションに対するラベル出力パラメタを設定します。詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダー区分に対するラベル印刷設定の設定」を参照してください。
- 6 [保存] をクリックします。

特定のオーダ区分に対するトランザクションパラメタの設定

特定のオーダ区分に対するパラメタを設定するには、トランセット保守フォームを使用します。アプリケーション全体でトランザクションに適用されるオーダ区分の特定パラメタを設定することも、特定の倉庫で実行されるトランザクションにのみ適用されるオーダ区分の特定パラメタを設定することもできます。

注: トランザクションの特定のタイプのみがさまざまなオーダ区分の概念をサポートします。また、[オーダ区分] タブで特定のタイプのオーダをそのトランザクションで有効または無効にすることができます。

- 1 アプリケーション全体のトランザクションに適用されるオーダ区分特定パラメタを設定するには、トランセット保守フォームを開きます。特定の倉庫で実行される場合のトランザクションのみに対応するオーダ区分特定パラメタを設定する場合、倉庫を選択、その後トランザクションを選択し [特定パラメタ設定] をクリックします。選択するトランザクションには倉庫固有パラメタが設定されている必要があります。倉庫固有パラメタをトランザクションに設定するための詳細は、119 ページの「特定の倉庫に対するトランザクションパラメタの設定」を参照してください。
- 2 グリッドでトランザクションを選択します。特定の倉庫にパラメタを設定する際、トランザクションは自動選択されます。
- 3 [オーダ区分] タブで設定するオーダ区分の [特定パラメタ] を選択します。オーダ区分にパラメタをコピーするよう求められたら、[OK] をクリックします。[オーダ区分パラメタ] タブで現在設定されているパラメタ値はこのオーダ区分にコピーされます。コピーされた値は [オーダ区分パラメタ] タブの値とはこの時点でリンクされなくなり、このトランザクションに対する特定オーダ区分として独立します。
- 4 特定オーダ区分のパラメタ値を変更するには、オーダ区分が選択されていることを確認して [特定パラメタ設定] を選択します。オーダ区分特定パラメタフォームが表示されます。
- 5 オーダ区分特定パラメタフォームのパラメタを設定します。ここで行うパラメタ値の変更は、このオーダ区分のみに適用されます。各パラメタの設定方法に関する詳細は、「トランセット保守」を参照してください。
- 6 任意で、このオーダ区分固有のラベル印刷パラメタを設定するには [ラベル印刷パラメタ] を選択します。トランザクション倉庫オーダ区分印刷パラメタフォームが表示されます。必要に応じてこのフォームでパラメタを設定し、変更箇所を保存します。ラベル印刷パラメタの設定に関する詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダ区分に対するラベル印刷設定の構成」を参照してください。
- 7 [保存] をクリックしてオーダ区分特定パラメタフォームを終了します。
- 8 [保存] をクリックしてトランセット保守フォームの変更を保存します。

特定の倉庫に対するトランザクションパラメタの設定

特定の倉庫に対するトランザクションパラメタを設定するには、倉庫パラメタフォームを使用します。

- 1 倉庫パラメタフォームを開きます。
- 2 既存の倉庫パラメタを設定するには、[倉庫] グリッドカラムから選択します。新しい倉庫のパラメタを設定するには、[倉庫] グリッドカラムから空のラインを選択して倉庫コードおよび倉庫フィールドの記述を指定します。。

- 3 [トランザクション] タブで、この倉庫固有のパラメータ値を含むすべてのトランザクションを選択します。
[倉庫指定] チェックボックスが選択されているトランザクションでは倉庫固有のパラメータがすでに使用されています。
- 4 現在トランセット保守フォーム上で設定済の通常トランザクションパラメータ値をコピーするには [テンプレートからコピー] を選択します。トランザクション値のコピーがその倉庫用に別途生成されます。パラメータ値のコピーは倉庫に使用するための初期値であり、必要に応じて変更できます。倉庫固有のパラメータ値のコピーは通常のトランザクションパラメータ値とはリンクされないため、倉庫固有パラメータの値を変更しても、通常トランザクションパラメータ値に影響が及ぶことはありません(その逆も同様)。一般トランザクションパラメータ値の代わりに他の倉庫からパラメータ値をコピーするために、[テンプレートからコピー] フォームボックスをクリアして [開始] フィールドでコピーしたい倉庫を選択します。
- 5 選択したトランザクションすべてに対してこの倉庫の倉庫固有パラメータを使用するために、[選択したトランザクションを倉庫にコピー] を選択します。任意で、すべてのトランザクションに倉庫固有パラメータを使用するために、[全トランザクションを倉庫にコピー] を選択します。
- 6 [保存] をクリックします。
- 7 特定のトランザクションに倉庫固有パラメータ値を設定するために、トランザクションを選択して [特定パラメータ設定] を選択します。トランセット保守フォームが表示されます。
- 8 このトランザクションに次の倉庫固有パラメータ値を設定します。パラメータを設定する倉庫は [倉庫] フィールドに表示されて、このフォーム上でのパラメータ値の変更はその倉庫のみに適用されます。このフォームでの各パラメータの設定方法の詳細については、「トランセット保守」を参照してください。
- 9 任意で、この倉庫固有のトランザクションのラベル出力パラメータを設定するには [ラベル出力パラメータ] を選択します。トランザクション倉庫オーダ区分印刷パラメータフォームが表示されます。必要に応じてこのフォームでパラメータを設定し、変更箇所を保存します。ラベル印刷パラメータの設定に関する詳細については、「特定のトランザクション、倉庫、オーダ区分に対するラベル印刷設定の構成」を参照してください。
- 10 [保存] をクリックします。